

活動目標①「自分たちが暮らす地域のことを知ろう」

<活動の目的・ねらい>

地域での助け合い、見守りをすすめる上で、人・場所・活動など、まずは自分たちの住んでいる地域のことを知ることが大切です。地域の人や活動に興味を持ち、知ることができるきっかけづくりをすすめます。

【年4回発行の広報わかば】

●今ある活動を広く伝えよう 【共同募金配分金・会費】

■広報わかばの発行

発行回数	4 回
発行部数	64,000 部

※新聞折込による。沼島地区は、出張所を通じて配布。

■ボランティアセンターだより・生活支援コーディネーターだよりの発行

発行回数	12回（毎月）
発行部数	9,000 部

■Facebook、Instagramの更新

更新、アップロード回数	83回
-------------	-----



地域福祉活動や社協の活動、ボランティアに関する情報を発信しました。毎月発行のボランティアセンターだより・生活支援コーディネーターだよりは公共機関や関係機関、金融窓口に配置いただくなど、活動を広く伝えています。



●地域の歴史や活動に興味を持とう

■市民交流センターとのネットワークづくり

■地域づくり協議会への参画

■地域単位での会議等への参画

【緑地域】

内容	回数
・第2層生活支援コーディネーターとともに各市民交流センターを訪問…	24 回
・民生委員児童委員協議会の会議や活動に参加…	12 回
・自治会の会議や活動に参加…	7 回
・老人会等の活動や会議に参加…	1 回
・地域づくり協議会などの会議に参加…	10 回
地域のイベントが増え、街頭募金活動や学生ボランティアの参加などにより、社協活動のPRや地域と若い世代の顔合わせの場を創出することができました。また、民協（民生委員児童委員協議会の略称）等の視察研修へ同行し、視察先での気づきを共有し、民生委員児童委員等と協働した相談対応を行うことができました。また、長い年月をかけて、地域へ出向き住民との関係性を築いてきたことで、ふれあい・いきいきサロンが3か所増えました。	54回

【西淡地域】

内容	回数
<ul style="list-style-type: none"> ・第2層生活支援コーディネーターとともに各市民交流センターを訪問… 84 回 ・民生委員児童委員協議会の会議や活動に参加… 9 回 ・自治会の会議や活動に参加… 3 回 ・老人会等の会議や活動に参加… 1 回 ・地域づくり協議会などの会議に参加… 3 回 <p>毎月、第2層生活支援コーディネーターと共に各市民交流センターを訪問し、情報共有や地域の情報把握に努めました。引き続き、地域の情報把握を進めるとともに、地域づくり協議会等へ参画できるよう、各種団体・地域住民との関りを増やしていきます。また、地域での行事も再開しつつある中、積極的に参画できるように努めます。</p>	100回

【三原地域】

内容	回数
<ul style="list-style-type: none"> ・第2層生活支援コーディネーターとともに各市民交流センターを訪問… 120 回 ・民生委員児童委員協議会の会議や活動に参加… 16 回 ・自治会の会議や活動に参加… 10 回 ・老人会等の会議や活動に参加… 2 回 ・地域づくり協議会などの会議に参加… 17 回 <p>榎列倭文地区・八木地区・市地区の地域づくり協議会に委員として参画し、地域の現状を把握・共有しています。新型コロナウイルスが5類に移行されてからは、地域づくり協議会や各地区の敬老会や公民館まつりに出向く機会は増加しました。今後も、積極的に地域に出向き、地域住民と顔の見える関係づくりに努めます。</p>	165回

【南淡地域】

内容	回数
<ul style="list-style-type: none"> ・第2層生活支援コーディネーターとともに各市民交流センターを訪問… 72回 ・民生委員児童委員協議会の会議や活動に参加… 24回 ・自治会の会議や活動に参加… 8回 ・老人会等の会議や活動に参加… 0回 ・地域づくり協議会などの会議に参加… 1回 	105回
<p>年間を通じ、地域のイベントや視察研修など、民生委員やボランティアの活動の場が広がりました。また、自治会会議等へ積極的に参加したことがきっかけとなり、阿万イベント部会などへの出席依頼がありました。協議の場に参加することで、社協の役割、活動などの説明を行うことができた半面、地域づくり協議会への参画が少なかった現状があります。今後は地域づくり協議会へアプローチし、関係性づくりに努めます</p>	

●井戸端会議のしやすい環境をつくろう 【善意銀行】



■地域福祉事業助成金の活用と財源の確保

善意銀行については、地域福祉財源として、より一層の有効活用や寄附者の思いを地域に還元できるしくみづくりのために、善意銀行運営要綱と設置規程を設けました。身近な地域で寄附が循環していることを知っていただくことで、財源の確保にもつなげていきます。



活動目標②「お互いを知り、認め合えるきっかけづくりをすすめよう」

<活動の目的・ねらい>

自分たちの地域に暮らす人のことを知り、自分の思いや考えを伝えるなど、地域を「我が事」として考えていくことが大切です。学校だけでなく、地域や企業でも積極的に福祉学習を取り入れ、お互いを知り、認め合えるきっかけづくりをすすめます。

●地域で研修会・学習会をすすめよう 【共同基金配分金・会費】



【みどり】

「ぼうさいカフェin緑」では南あわじ市危機管理課より「沼島地区での要配慮者個別避難計画作成について」報告を受け、グループワークでは地域で暮らす要配慮者の避難について話し合いました。みどりふれあい福祉のつどいは、初めて社会福祉協議会の駐車場で開催し、赤い羽根ハロウィンなどのイベントを通じて赤い羽根共同基金のPRを行いました。また、せいだん支部と合同で倉敷市真備町岡田地区社協への視察研修を実施しました。平成30年7月豪雨災害の現状や、災害時における住民の動きなどを伺い、グループワークを通じて日常における住民のつながりが、災害時における支え合いにつながっていくことを再認識する機会となりました。

■支部運営委員会

月日	内 容	出席者数
R5.5.25	第1回 ・支部長、副支部長の選任 ・年間計画について ・地域の情報交換（地域の中で気になる世帯についてなど）	17名
R5.6.29	第2回 ・ぼうさいカフェin緑について	14名
R5.7.20	第3回 ・ぼうさいカフェin緑について ・みどりふれあい福祉のつどいについて ・視察研修について	12名
R5.8.17	第4回 ・ぼうさいカフェin緑について ・募金協力員会について	16名
R5.11.30	第5回 ・視察研修について せいだん支部との合同実施について	10名
R5.12.21	第6回 ・視察研修について 平成30年豪雨災害についての事前学習、 タイムスケジュール等について	12名
R6.3.14	第7回 ・視察研修の振り返り ・今年度の振り返り	11名

■みどり支部募金協力委員会

月日	内 容	出席者数
R5.10.12	<ul style="list-style-type: none"> ・募金協力員の選任について ・令和4年度事業報告、令和5年度事業計画について ・募金活動の推進について ・班編成ならびに事業所訪問 	27名

■みどりふれあい福祉のつどい実行委員会

月日	内 容	出席者数
R5.8.17	第1回 <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会の設置について ・役員の選任について ・実施計画（案）、予算（案）について 	22名
R5.9.14	第2回 <ul style="list-style-type: none"> ・実施計画について ・タイムスケジュール、当日の役割分担について ・周知・広報について 	19名
R5.10.19	第3回 <ul style="list-style-type: none"> ・タイムスケジュール、前日準備、当日の運営について 	19名
R5.11.30	第4回 <ul style="list-style-type: none"> ・みどりふれあい福祉のつどいの振り返り 	11名



みどりふれあい福祉のつどい



せいだんふれあい交流のつどい

【せいだん】

せいだん支部運営委員会では、2ヶ月に1回、支部運営委員会を開催しています。令和5年度は、計6回開催しました。具体的には、運営委員会内で協議を進め、「防災・減災研修会」「第11回せいだんふれあい交流のつどい」「みどり・せいだん支部合同視察研修」を実施しました。「防災・減災研修会」では、震災の語りペボランティア及び防災士の方よりお話を伺い、地域での防災について再確認することができました。「第11回せいだんふれあい交流のつどい」では、スタッフを含め500名を超える方にご参加いただき、大盛況のうちに終わることができました。また、みどり支部と合同で実施した視察研修では、岡山県倉敷市社協に伺いました。先進地域から学びを得ると共に、他支部との交流を深める機会となりました。

■支部運営委員会

月日	内 容	出席者数
R5.5.18	第1回 <ul style="list-style-type: none"> ・社協活動の説明 ・令和5年度の年間計画について ・ささえあい（防災）マップづくり研修について ・地域の情報共有 	10名
R5.7.13	第2回 <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉推進計画について ・ささえあい（防災）マップ作り研修について ・第11回せいだんふれあい交流のつどいについて ・地域の情報共有 	13名
R5.9.13	第3回 <ul style="list-style-type: none"> ・ささえあい（防災）マップづくり研修の振り返り ・第11回せいだんふれあい交流のつどいについて 	13名
R5.11.14	第4回 <ul style="list-style-type: none"> ・第11回せいだんふれあい交流のつどいについて ・視察研修について 	11名
R5.12.21	第5回 <ul style="list-style-type: none"> ・第11回せいだんふれあい交流のつどいの振り返り ・視察研修について 	12名
R6.3.21	第6回 <ul style="list-style-type: none"> ・視察研修の振り返り ・今年度の活動の振り返り ・来年度の活動に向けて 	8名

■せいだん支部募金協力委員会

月日	内 容	出席者数
R5.9.8	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の事業計画について ・募金活動の推進について ・令和5年度の事業所募金について 	13名

■せいだんふれあい交流のつどい実行委員会

月日	内 容	出席者数
R5.11.14	第1回 ・実行委員会の設置について ・監査役員の選出 ・当日の役割分担およびタイムスケジュールの確認	11名
R5.12.21	第2回 ・振り返りおよび会計監査報告	12名

【みはら】

みはら支部運営委員会では2か月に1回、支部運営委員会を開催しています。

今年度は、主に「地域福祉フォーラム」と「みはら支部募金協力委員会」について協議しました。毎回、地域の情報共有も行っており、各地域での動きを共有したり普段の暮らしの中で気になっている事を話し合ったりしました。

また、3月10日には、なんだん支部運営委員会と合同で「地域福祉フォーラム」を実施しました。合同開催とすることで、共通した課題と各地区の取り組みを共有することができました。今後も、他支部との連携を図っていきます。

■支部運営委員会

月日	内 容	出席者数
R5.5.19	第1回 ・支部長、副支部長の選出 ・南あわじ市社会福祉協議会・みはら支部運営委員会とは ・みはら福祉のつどいについて ・令和4年度事業報告、令和5年度事業計画について	11名
R5.7.14	第2回 ・みはら福祉のつどいについて ・地域の情報共有について	9名
R5.12.18	第3回 ・地域福祉フォーラムについて	9名
R6.1.15	第4回 ・地域福祉フォーラムについて ・街頭募金活動について	12名
R6.2.22	第5回 ・地域福祉フォーラムについて ・街頭募金活動について	6名
R6.3.18	第6回 ・地域福祉フォーラムの振り返り ・令和5年度事業報告 ・令和6年度事業計画	6名

■みはら支部募金協力委員会

月日	内 容	出席者数
R5.12.18	・令和4年度事業報告 ・令和5年度事業計画 ・街頭募金活動について	9名

【なんたん】

「なんたん福祉まつり」は多くの方に参加いただき実施することができました。福祉まつりでは、初めてクイズラリーを実施し、「地域にあったらいいこんなところ」を、幅広い年齢層からお聞きすることができました。また、3月には「移住者や若者の地域参加」をテーマに、みはら支部と合同で地域福祉フォーラムを開催しました。フォーラムを通じ、移住者や若者の思いや活動を共有することで、地域における次世代のリーダー発掘や、地域の魅力を再発見する機会となりました。

■支部運営委員会

月日	内 容	出席者数
R5.5.30	第1回 ・支部長、副支部長の選任 ・年間計画について ・各地区の情報交換、夏の行事など	20名
R5.7.11	第2回 ・支部研修について ・なんたん福祉まつりについて ・各地区の情報交換、敬老会、民生委員活動など	17名
R5.8.30	第3回 ・研修会について ・各地区の情報交換、住民大会の開催状況など	17名
R5.12.19	第4回 ・なんたん福祉まつり振り返り ・研修会について ・各地区の情報交換、年末年始の事業予定など	12名
R6.1.16	第5回 ・地域福祉フォーラムについて みはら支部との合同実施について ・各地区の情報交換、ひとり暮らし高齢者の見守り活動など	13名
R6.2.27	第6回 ・地域福祉フォーラムについて 当日の役割、タイムスケジュールについて ・各地区の情報交換、ひとり暮らし高齢者の見守り活動など	17名
R6.3.26	第7回 ・今年度の振り返り	13名

■なんたん支部募金協力委員会

月日	内 容	出席者数
R5.9.19	・令和4年度事業報告・令和5年度事業計画について ・募金活動の推進について	17名

■なんだん福祉まつり実行委員会

月日	内 容	出席者数
R5.8.30	第1回 ・実行委員会長、副委員長、会計監査員の選出 ・実施計画、チラシの配布など周知について	17名
R5.9.19	第2回 ・周知、広報について、自治会回覧の方法について ・駐車場の確保など当日運営についての協議	17名
R5.10.17	第3回 ・当日のタイムスケジュール、役割分担について ・前日準備、雨天時の対応についての協議	19名

■各支部まつり

月日	会場	内 容
R5.10.29	社会福祉協議会	令和5年度みどりふれあい福祉のつどい 舞台コーナー、お楽しみコーナー、お買い物コー ナーなど
R5.11.11	賀集地区公民館	令和5年度なんだん福祉まつり ステージ発表、お買い物マルシェ、体験ワーク ショップ、クイズラリーなど
R5.11.25	湊地区公民館	第11回せいだんふれあい交流のつどい 舞台発表、バザー、作業所販売、アンケート



なんだん福祉まつり



地域福祉フォーラム

■みどり・せいだん支部合同視察研修

みどり、せいだん支部ともに「災害」をテーマに事業を実施しており、倉敷市真備町岡田地区社協への視察研修を合同で実施しました。平成30年7月豪雨災害の現状や、災害時における住民の動きなどを伺い、グループワークを通じて日常における住民のつながりが、災害時における支え合いにつながっていくことを再認識する機会となりました。

月日	内 容	出席者数
R6.2.8	視察先 倉敷市社会福祉協議会 真備事務所 目的 真備町の被災状況・岡田地区社協のボランティアセンターの活動について学ぶ 内 容 ①実践報告 岡田地区社協副会長 渡邊操 氏 倉敷市社会福祉協議会 生活支援コーディネーター 松本和徳 氏 ②グループワーク	15名

■みはら・なんだん支部合同地域福祉フォーラム

地域で活躍するリーダー育成を目的として、一人ひとりの考え方や行動、出会いが重なり、地域の宝物へと変化した市内在住の若者や移住者の実践報告をフォーラム形式で実施しました。

月日	内 容	出席者数
R6.3.10	実践報告 発表者 八木のヤギ牧場 堂本 秀幸さん 発表者 沼島100年計画 ~SDGs実現委員会~ 遠藤 直子さん、堺 聡さん ファシリテーター 武庫川女子大学 松端克文 教授	86名

■福祉の出前講座

各地区で展開しているサロンや集いに、講座を手法とし職員が参加しました。地域情報の把握を行い、地区カルテに記入していくことができました。

講座メニュー	具体的な内容	回数
レクリエーション	各地区で開催されているふれあい・いきいきサロンにて、工作や体操等の指導	60回
防災（支え合い）マップづくり	マップ作りなどを通して地域の防災意識の向上を目的に実施	2回
講習その他	サロンで人権ビデオ等を活用し、人権意識や健康意識の向上を目的に実施	5回

●地域で福祉学習をすすめよう

■学校での福祉学習

月 日	内 容	学校・事業所名
R5.7.7	聴覚障がいのある当事者のお話、手話体験	倭文小学校
R5.9.13	視覚障がいのある当事者のお話、アイマスク・白杖体験	松帆小学校
R5.9.15	聴覚障がいのある当事者のお話、手話体験	松帆小学校
R5.10.2	視覚障がいのある当事者のお話、アイマスク・白杖体験	阿万小学校
R5.10.3	視覚障がいのある当事者のお話、アイマスク・白杖体験	広田中学校
R5.10.5	車いす体験	広田中学校
R5.10.18	車いす体験	倭文小学校
R5.10.19	車いすバスケット等ユニバーサルスポーツ体験	北阿万小学校
R5.10.24	視覚障がいのある当事者のお話、アイマスク・白杖体験	湊小学校
R5.10.27	視覚障がいのある当事者のお話、アイマスク・白杖体験	志知小学校
R5.11.2	車いす体験	市小学校
R5.11.13	高齢者疑似体験	松帆小学校
R5.11.14	視覚障がいのある当事者のお話、アイマスク・白杖体験	北阿万小学校
R5.11.16	車いす体験	松帆小学校
R5.11.16	聴覚障がいのある当事者のお話、手話体験	湊小学校
R5.11.18	視覚障がいのある当事者のお話、アイマスク・白杖体験	市小学校
R5.11.18	聴覚障がいのある当事者のお話、手話体験	西淡中学校
R5.11.22	視覚障がいのある当事者のお話、点字体験	神代小学校
R5.11.24	高齢者疑似体験	阿万小学校
R5.12.5	聴覚障がいのある当事者のお話、手話体験	市小学校
R5.12.20	車いす体験	南淡中学校
R6.1.23	視覚障がいのある当事者のお話、アイマスク・白杖体験	辰美小学校
R6.1.25	聴覚障がいのある当事者のお話、手話体験	沼島中学校
R6.1.26	高齢者疑似体験	倭文小学校
R6.2.5	車いす体験	辰美小学校
R6.2.8	視覚障がいのある当事者のお話、点字体験	八木小学校
R6.2.19	身体障がいのある当事者のお話、車いす体験	八木小学校
R6.2.26	視覚障がいのある当事者のお話、アイマスク・白杖体験	福良小学校
R6.3.5	車いす体験	福良小学校
R6.3.11	聴覚障がいのある当事者のお話、手話体験	福良小学校
R6.3.14	災害ボランティアセンターについて	福良小学校

【福祉学習講師派遣助成事業の活用状況】

対象	件数	助成額
小学校	14 件	155,000 円
中学校	3 件	45,000 円
高等学校	0 件	0 円
専門学校	0 件	0 円
大学	0 件	0 円

■企業・事業所での福祉学習

南あわじ市市民協働課より依頼があり、市民交流センター職員および総合窓口センター職員20名を対象に視覚障がい者の誘導案内、窓口対応を目的とした学習会を実施しました。今後もこうした企業、事業所が1社でも増えるよう、当事者の理解を進めるための福祉学習の啓発活動を行っていきます。

月 日	内 容	学校・事業所名
R5.7.5	市民交流センター職員、総合窓口職員を対象とした窓口対応学習会 視覚障がいのある当事者のお話、アイマスク・白杖体験	南あわじ市市民協働課

■当事者理解を深める学習

赤い羽根共同募金配分金を講師派遣費用として活用することで、地域・学校での福祉学習の拡充に努めました。今年度は、市内小中学校17校延べ32回の講師派遣や物品の貸出を実施しました。

年々福祉学習プログラムを導入していただく機会は増加しており、6年度は福祉学習プログラムの見直しや学校だけでなく、地域の現況に応じたプログラムの開発を目的として、当事者や学校関係者とのワークショップなどを実施していきます。

■サマーチャレンジボランティア

5年ぶりに実施し、高校生、専門学校生、移住されてきた方など延べ20名が地域のイベントや、福祉施設などで活動しました。参加した学生からは、「子どもたちと遊んだり、勉強を教えたり楽しく活動できた。今後の進路に活かしていきたい」などの感想をいただきました。

また受入施設からは、「感染症の流行等で受け入れが難しい状況が続いており、久しぶりにボランティアが活動している姿に私たちも元気をもらった」などの声をいただきました。今後も一人でも多くの方がボランティア活動に興味をもってもらえるように、朗読や傾聴などのテーマごとの講座や、ボランティアセンターだよりなどを通じて活動紹介や啓発活動を行っていきます。



サマーチャレンジボランティアの様子

活動目標③「地域で活躍できる人を増やそう」

<活動の目的・ねらい>

高齢化や人口減少から、地域の担い手不足が大きな課題となっています。住民による地域づくり活動を広げていくためにも、これまでの活動者への支援に加え、新しい層への働きかけや幅広い世代が活動に関われるきっかけづくりをすすめていきます。

●新しい人材を見つけるきっかけづくりをすすめよう 【共同募金配分金】

■ボランティア災害共済加入の手続き

ボランティア活動中の事故に備え、安心して活動が行えるよう「ボランティア・市民活動災害共済」等の加入促進を図りました。

種 別	人（件）数	掛金
兵庫県ボランティア・市民活動災害共済	796 人	399,100 円
兵庫県ボランティア活動等行事用保険	340 件	20,200 円
兵庫県移送サービス交通傷害保険	9 名	3,150 円

■県民ボランティア活動助成等の広報と活用

広報わかば、ボランティアセンターだよりを通じて助成金情報を周知し、49グループからのエントリー申請を受理しました。ボランティア活動が円滑に行えるように支援していきます。

■朗読ボランティア初級講習会

視覚障がい者や視力の低下した高齢者などを対象に、音声での情報提供を行うボランティアを育成することを目的に、朗読技術の習得や向上のための朗読ボランティア初級講習会を実施しました。講習会を修了した方は、市内の朗読ボランティアグループへの登録や、学校での読み聞かせなどの活動につながりました。

期間	講師	参加者数	場所
R5.4.13～6.15 全6回	テイジー淡路 安岡 秀美 氏	18名	広田地区公民館

■助けられ上手さん講座

コロナの影響で、人との付き合い方や地域のつながり方も大きく変化してきました。障がいの有無、高齢者、認知症の方、老若男女などすべてにおいて、お互いを知り、認め合うことでつながることの大切さを知ることができ、助けたり、助けられたりとを地域のみなさまと一緒に考える機会として講座を開催しました。

月日	内容	参加者数	場所
R6.2.28	知的障がいをもつ保護者で結成されている「おひさま隊」を講師に迎え、助けられ上手さん講座を開催。 ～知る・認め合う・つながる～事を疑似体験を通じて学びました。	23名	中央公民館

■新規ボランティアの発掘

内容
8月に「淡路島・慶野松原根上がり隊」が新しく加入し、合計で76グループがボランティアセンターへ登録しています。「淡路島・慶野松原根上がり隊」は慶野松原の清掃活動による環境保全を主な活動としているグループです。地域の小学校とも連携し、環境保全活動を通じ、地域の歴史や魅力などを伝えていきます。また、登録はされていませんが、平成淡路看護専門学校でボランティア部が立ち上がり、地域の活動や、社協事業に参加しています。

■トライやる・ウィークの受け入れ

期間	学校名	人数	活動内容
R5.5.15	三原中学校	2名	介護相談会に参加、社協会費資材の仕分け、共同募金グッズの作成

●活動者の交流の輪を広げよう 【共同募金配分金】

■ボランティア交流会

5年ぶりに開催しました。昨年度のアンケート結果の報告と、講師を迎え、ボランティア活動を続ける秘訣や仲間づくりなどについて手遊びを交えながら講演いただきました。ボランティア同士が、日ごろの悩みや、不安に感じていることを共有する機会となり、交流会をきっかけに活動を再開したボランティアグループもありました。

月日	内容	参加者数	場所
R6.3.22	「～やっぱり楽しい！ボランティア～」 講師 あそびの工房 もくもく屋 事務局長・コミュニケーションデザイナー 田川 雅規 氏	32名	広田地区公民館

■リーダー交流会

3年ぶりに開催しました。講師を迎え、ユニバーサルスポーツである「卓球バレー」を体験後、グループごとに意見交換をしました。つながりを絶やさないために実践したことなど、今後のサロン活動に活かせる内容となりました。

月日	内容	参加者数	場所
R5.6.30	「笑いの健康法」～一日5回笑って 5回感動しよう～ 講師：ほっとほほえみ淡路島	47名	中央公民館

●生活を支える担い手を増やそう 【善意銀行】

■担い手発掘に向けた取り組み

内 容
市内の事業所より「ボランティアとして移送を支援するしくみをつくりたい」との相談があり、地域の現状把握とニーズ調査を行いました。立ち上げに向けて、オンライン研修をともに受講し、担い手の発掘や移送支援の進め方の事例を学びました。まだ、立ち上げには至っていませんが、今後も検討を重ねていきます。

■新しい事業への取り組み

内 容
聴覚機能が低下した人を対象に「きこえのなんでも相談会」を淡路聴覚障害者センターの事業を活用し、丸山・津井・湊のサロンで実施しました。 聞こえの講話、言語聴覚士による聴力測定、補聴器の装着体験などを体験しました。自分では聞こえの具合はわかりづらいので、「自分の聴力を確認できた」「不安や悩みが話せてよかった」と自分の聞こえの具合を知るきっかけになり好評でした。聴力の低下が、とじこもりにつながらないように啓発していく支援者の養成にもつなげています。

■おもしろポイント制度

シニア世代の多種多様な活躍の場の創出を目的に、生涯活躍推進室が「高齢者等元気活躍推進事業」を推進しています。活動者の安全と安心を守るため、ボランティア保険の加入申し込み手続きを行っています。

◇おもしろポイント制度登録説明会等開催支援業務への協力

月日	場所	登録状況	
		内容	登録者数
R5.4.28	南あわじ市役所	個別相談	0
R5.5.24	松帆市民交流センター	個別相談	2
R5.6.27	広田市民交流センター2F	個別相談	0
R5.7.26	福良市民交流センター	個別相談	2
R5.8.22	ショッピングセンターシーバ	個別相談	1
R5.8.29	フローラせいだん	個別相談	1
R5.9.15	南あわじ市役所	個別相談	5
R5.10.27	南あわじ市役所	個別相談	1
R5.11.27	南あわじ市役所	個別相談	1
R5.12.25	南あわじ市役所	個別相談	0
R5.12.26	八木市民交流センター	個別相談	0
R6.1.26	中央公民館	個別相談	0
R6.1.29	市役所第二別館	合同説明会	0
R6.2.26	南あわじ市役所	個別相談	0

■表彰

受賞者・団体	表彰名・大会等	表彰の内容
中田サロン	ひょうご県民ボランティア活動賞	長年にわたり、ふれあい交流活動を行い参加者の心身機能の維持、健康づくりに積極的に取り組む団体。



リーダー交流会



中田サロンのみなさま

活動目標④「誰でも参加できる居場所を増やそう」

<活動の目的・ねらい>

地域の中で孤立する人をなくすためにも、誰かとつながることができるきっかけづくりや、参加できる居場所が必要です。さまざまな形で参加できる居場所、助け合い活動を広げる居場所を、地域の中に増やしていきましょう。

●その人に合わせた「働く場」を増やそう

■はたらく場の創出

高齢者や障がい者、生活困窮者など属性にとらわれることなく、身近な地域に自己実現できる場があること、誰もに自分に応じた活躍の場があること、地域の中での役割があること、そんな南あわじ市にできるように関係機関との協議を重ねています。

南あわじ市障害福祉計画（第4次）策定委員会に参画し、「はたらきたい」気持ちを応援できるしくみを検討しました。就労を通じて社会とつながるきっかけづくりができるよう、本人に合ったはたらく場の整備・充実に向けた取り組みを進めていきます。

●同じ思いの人がつながりあえる居場所を増やそう 【共同募金配分金・補助金、受託金】

■ふれあい・いきいきサロン

誰もが地域で元気に暮らせるように、身近な地域で集える場づくりを推進しています。コロナ禍で集まることに制限がかかった時期を乗り越え、人と人とがつながり合うことを大切に各地域でさまざまなサロンが活動しています。継続した活動が行えるように支援していきます。

【緑エリア】 12か所

【西淡エリア】 30か所

【三原エリア】 11か所

【南淡エリア】 25か所



■つながりサロン

当事者が交流できる場として、定期的を開催していく大切さを実感しています。また内容については参加者から意見を聞き、取り入れています。2か月に1回程度、開催しています。

月日	内容	参加者数	場所
R5.4.1	第1回 みんなでお花見 ・諭鶴羽ダム周辺およびイングランドの丘散策 ・意見交換会(コロナ禍の生活や近況について)	8名	諭鶴羽ダム イングランドの丘
R5.6.17	第2回 花の寄せ植え体験 ・季節の花の寄せ植え体験 ・意見交換会(アフターコロナの生活や近況について)	13名	中央公民館
R5.9.23	第3回 みんなdeおしゃべり会 ・意見交換会(普段の生活や福祉まつりについて) ・障害福祉計画について(南あわじ市役所福祉課)	4名	中央公民館
R5.10.22	第4回 ユニバーサルスポーツ交流体験会 ・ユニバーサルスポーツの体験や事業所の販売ブースなどを楽しむ	6名	洲本市文化体育館
R5.11.25	第5回 せいだんふれあい交流のつどい ・せいだんふれあい交流のつどいに参加し、舞台発表やバザーなどを楽しむ	11名	湊地区公民館
R5.12.23	第6回 クリスマス会 ・クリスマス会を開催しプレゼント交換・クリスマスケーキ・お弁当を楽しむ	13名	中央公民館
R6.3.31	第7回 志知城跡桜まつりに参加 ・桜まつりを楽しむ、意見交換会 ・イオン南淡路店で買い物	8名	志知城跡(桜まつり会場) イオン南淡路店

■スポーツ交流教室

障がいのある当事者の方からも「またみんなでスポーツをしたい」との声をいただいています。6年度も卓球バレー大会やフットサル交流大会への参加を目指します。

月日	内容	参加者数	場所
R6.2.3	卓球バレー交流大会	5名	南あわじ市 文化体育館
R6.2.11	つながりフットサル交流大会	9名	鮎愛館(五色町)



つながりフットサル交流大会

■音声パソコン教室

視覚障がい者が、パソコン操作やインターネット等を学ぶことで、情報を自ら得て新たな友達とつながることや、当事者が地域で自分らしく暮らすことができるようになることを目指して実施しています。

感染症対策に取り組みながら継続して実施し、録音や画像の取り込みなど、参加者の意向に沿った内容でくらしに必要なスキルを身につけることができました。

月日	内容	参加者数	場所
R5.4.14	タイピング、グラフの作成について	7名	中央公民館
R5.5.13	CDへの録音について	9名	中央公民館
R5.6.18	フォルダの作成について	8名	中央公民館
R5.7.16	SNS等の利用について	8名	中央公民館
R5.8.19	質疑応答	7名	中央公民館
R5.9.10	インターネットを利用した申請等について	9名	中央公民館
R5.10.29	音声データのパソコン保存について	8名	中央公民館
R5.11.11	年賀状の住所データ、登録について	8名	中央公民館
R5.12.9	参加者のしたい内容に沿って実施	9名	中央公民館
R6.1.13	図書館の蔵書検索について	8名	中央公民館
R6.2.10	音声データの保存について	8名	中央公民館
R6.3.9	参加者のしたい内容に沿って実施	8名	中央公民館

■よかサークル「あつまらんか！」

保護者や兄弟姉妹同士の余暇支援やつながりづくりに焦点を当て毎年実施しています。

この企画は高校生や大学生のボランティアにも協力いただいております。障がいのある子どもたちと高校生や大学生のボランティアが交流する機会になっています。そして交流を通して相手の立場になって考えたり、他人を思いやる優しさを育む場にもなっています。また、事業の中で保護者は子どもたちの様子を見ながら、保護者同士で日頃の生活や進路等について語り合う情報交換の場にもなっています。

月日	内容	参加者数	場所
R5.8.18	海レク(マリンスポーツ) ・Wカヌーやバナナボート、メガSUPなどの体験、交流	25名	南淡B&G 海洋センター

■くらす連絡会

新型コロナウイルスが5類に移行し、5年ぶりに総合防災訓練に参加し会場見学と意見交換を行いました。当事者の声を拾い上げ、地域でのくらしを守るため行政や市障害福祉計画、各団体への働きかけをしています。

月日	内容	参加者数	場所
R5.11.19	防災訓練に参加しよう！ 総合防災訓練会場見学・意見交換会	6名	賀集小学校 賀集地区公民館

■家族会（知的・精神・身体・認知症等）

障がい者の相談支援の現場から、親なき後の子どもの生活を心配する保護者の声が出てきたことを受けて「みんなでしゃべろう会」を実施しました。生活の中での不安や、何気ない会話ができる場として開催することができました。定期開催を希望する声があり、6年度以降も継続して開催していく予定です。

月日	内容	参加者数	場所
R6.3.15	フリートーク	4名	南あわじ市社協 202会議室



よかさ〜くる「あつまらんか！」

活動目標⑤「あなたもわたしも自分らしく暮らせるしくみをつくろう」

<活動の目的・ねらい>

暮らしや考え方の多様化に伴い、生活課題も複雑化、多様化しています。地域の中で孤立する人がないように相談支援のネットワーク強化だけでなく、支援が必要であるにも関わらず届いていない人に対して、働きかけができるしくみをつくっていく必要があります。

●みんなの権利が守られる共生のまちづくりをすすめよう 【補助金、受託金】

■日常生活自立支援事業

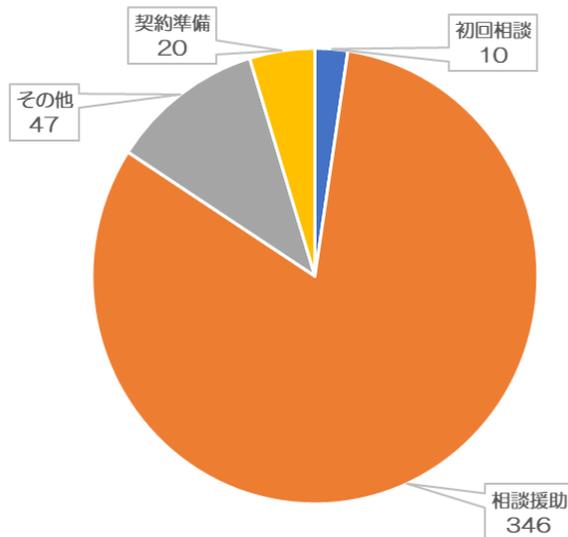
認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者など判断能力が不十分な方が地域において自立した生活が送れるよう、支援を行っています。生活困窮者自立支援事業で受けた相談の中には、金銭管理に不安を覚えている方もおり、本事業の利用も検討する等、相談も視野に入れながら、一体的な対応ができるよう支援しています。

《相談件数》

初回相談	10 (3)	件	新規契約者数	10 (5)	人
相談回数	423 (440)	件	利用実人数	27 (27)	人

() 中数字は前年実績

《相談内容内訳》



初回相談の内訳は認知症高齢者4件、知的障がい者3件、精神障がい3件です。本人の変化に加え、家族や支援者の状況変化が主な理由でした。

契約時、身寄りがいないために通帳返還先を定められない方が出てきています。

また、問い合わせでは、支援者を通じてのものが大半を占めていますが、契約に至らないケースが多くありました。具体的には、成年後見制度につながらない、身体や居住地の課題により、判断力に問題がないが金融機関や市役所等に行きづらい、書面記入に支援がいるなどのケースでした。

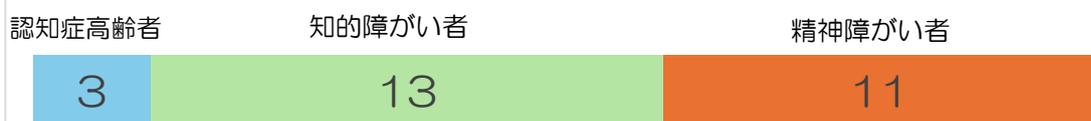
このように制度では対応しきれないニーズが増大している傾向にあると分析しています。

これらのことから、本事業の制度周知も重要ですが、他制度への働きかけや制度の狭間や社会情勢の変化に対応できるしくみづくりも課題といえます。

《対象者別契約者数》

契約者	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計
件数	3件	13件	11件	0件	27件

《契約者内訳》



《契約者に対する訪問回数》

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延支援回数
R5年度	85	88	92	84	77	77	77	73	78	77	75	75	958 回

■生活福祉資金貸付制度・法外小口資金貸付事業

生活福祉資金貸付制度は低所得世帯をはじめ、障がいのある方や介護が必要な高齢者等のいる世帯に対して、資金の貸付と民生委員・児童委員が必要な支援を行うことにより、経済的自立と生活意欲を高めると同時に在宅福祉及び社会参加を促し、世帯が安定した生活を営むことができることを目的として貸付をしています。進学決定時期の2～3月に4件の教育資金の相談があり、うち1件の申請を受け付けました。申請に至らない理由としては、基準以上の収入、学校が対象外、複雑な手続きと多岐に渡ります。これらのことから、ライフプランの作成等、各世帯で早い段階で進学費用を検討する機会を持つことで、貸付に頼らない対策が取れるともいえます。

法外小口貸付事業は1件を除いて生活保護世帯であり、貸付理由は支給費用の立替えを除けば家計管理の問題でした。

資金種類		R5年度	R4年度	貸付（償還）中の件数
教育支援資金		1	0	83
福祉資金	生業を営むために必要な資金	0	0	
	技能を習得するために必要な資金	0	0	
	住宅の増改築や改修のために必要な資金	0	0	
	福祉用具を購入するために必要な資金	0	0	
	中国残留邦人の年金追納に必要な資金	0	0	
	療養のために必要な資金	0	1	
	介護・障害福祉サービスに必要な資金	0	0	
	冠婚葬祭に必要な資金	0	0	
	住居の移転等に必要な資金	0	2	
	その他日常生活上一時的に必要な資金	0	0	
	緊急小口資金	0	1	
総合支援資金		1	0	33
不動産担保型生活資金		0	0	0
要保護世帯向け不動産担保型生活資金		0	0	0
特別貸付 小口ナ	緊急小口資金※	/		12
	総合支援資金 生活支援費※	/		11

法外小口資金	17(14)	16(8)	
--------	--------	-------	--

※（ ）中の数字は、年度内に償還が完了したもの

■新型コロナウイルス特例貸付

新型コロナウイルス感染症に伴う支援制度として始まった特例貸付は令和4年9月30日をもって受付が終了となりましたが、以降も借受人の生活や償還、手続き等の支援を継続して行っています。

今年度は生活困窮者支援体制強化事業として、「ほっとかへんワーカー」を配置し、その職員を中心に上半期は償還手続き未実施の借受人約40名に対する生活状況の聞き取り[※]を行った結果、収入の変化は三者三様でした。

年間の特例貸付関係の相談は延べ35件の内24件が償還に関するものであり、大半は免除相談および手続き支援であり、理由としては非課税または生活苦に関する償還困難による低収入が挙げられています。

上記から、コロナ禍の影響は5類移行後、底を脱してはいるものの、借受人の生活は大きく改善したともいえない状況であることが推測できます。

《参考：令和5年度免除・猶予件数》

資金種類	免除決定	猶予決定
緊急小口資金	15	11
総合支援資金（延長）	30	1
総合支援資金（再貸付）	1	0
総合支援資金（初回）	14	10
合計	60	22



■障害者虐待防止センター（南あわじ市障害者権利擁護センター）

障がいのある方の権利を守るため、虐待通報等への対応を行いました。権利侵害されていることに気づいていない方や、言葉で表現することが難しい方など、判断に迷うケースが増えています。正しい対応ができるように、司法の専門職との連携の必要性を感じています。当事者の権利を守る機能を発揮できるように、市の担当者とも検討を重ねています。

《相談・通報者》

本人	家族	事業所	警察	医療機関	その他
1	0	1	0	0	0

《相談・通報者》

身体的	放棄放任	心理的	性的	経済的	その他
1	0	1	0	0	0

■成年後見制度学習会

これまでの相談対応等で総合相談や日常生活自立支援事業では限界を感じる事が多く、法人後見を視野に権利擁護に関する研修に参加しました。加えて、島内で新たに参入した2名の弁護士と連携することができました。今後は、これまでのつながりに加え、新たな協力者と共に市内の権利擁護の体制づくりに取り組んでいきます。

●**お互いの存在を知り、出会う機会を大切にしよう** 【共同募金配分金】

■**人権学習**

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	社会教育課と連携し、ふれあい・いきいきサロンでのビデオ学習の支援や、じんけんサマーフェスティバルでは、みなといきいきサロンのみなさまと工作体験を行いました。 下半期には、福祉まつりで啓発活動を行い、人権についてより身近なところで学ぶ機会を設けました。
---------------------------	--

■**当事者活動の支援**

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	手をつなぐ育成会、身体障害者福祉協会、中途失聴難聴者の会、あわじユニバーサルスポーツの会等から、社会福祉事業助成金配分金事業の申請を受けています。各団体が抱えている課題等の解決方法を探りながら、活動を続けていくために必要な支援を検討していきます。
---------------------------	---

●**助けたり・助けられたりできる関係を大切にしよう** 【共同募金配分金】

■**まちの電気屋ネットワーク事業**

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	生活困窮者や火災などにより、住宅や家財等を失くした方に、電化製品などを提供することで、自立した生活の再建に向けた支援を行っています。市内12店舗の電気屋が登録しており、使わなくなった電化製品の寄附と年1回の点検を行っています。 社協が、このネットワークのコーディネートを担っており、テレビ他3品目3件を受け入れ、生活困窮世帯など2件に2品目を提供しました。 【登録電気店】 (有)浜野電機、庄司電気商会、喜田電気商会、三和商事(株)、松下電器、辻西電化センター、豊原電気商会、マスモトでんき、電気のお店くらだ、サカベ電器、双葉電化、矢野ミシン電器商会
---------------------------	--

■**架け橋パントリープロジェクト【市民プロジェクト】**

長期化したコロナ禍、日々の生活に困窮する世帯が増加していることを受けて、フードバンク淡路島、消費者協会、コープこうべ、福祉課との連携により「食でつなぐ！南あわじの輪！架け橋パントリープロジェクト」を進めています。取り組むたびに賛同いただく住民の方、企業等も増えてきています。

食材の配布で一時的な支援を行い、希望者には相談窓口を開設し、生活面の相談に応じています。また、住民のニーズを把握するためアンケート調査を実施しています。必要な方に確実に情報が届くよう、特例資金利用世帯、ひとり親世帯等へ郵送で案内しました。

月日	内容・利用者数	場所
R5.8.8	食材の詰め込み作業・精米 (南あわじ市消費者協会・ボランティア他)	南あわじ市社協 203会議室
R5.8.10	第8回架け橋パントリープロジェクト食材無料配布会を開催 94世帯の方へ無料で食材セットを配布 地域の方より寄附いただいた日用品等も自由にお持ち帰りいただきました	
R5.12.21	食材の詰め込み作業・精米 (南あわじ市消費者協会・ボランティア他)	
R5.12.23	第9回架け橋パントリープロジェクト食材無料配布会を開催 123世帯の方へ無料で食材セットを配布 地域の方より寄附いただいた日用品等も自由にお持ち帰りいただきました	

■生活困窮者等への食材支援

新型コロナウイルス感染症特例貸付相談者や生活困窮世帯、生活保護世帯へ必要に応じて食材を提供しました。

上半期は19世帯、下半期は23世帯へ合計42回の食材支援を行いました。これらの食材は、各種団体のフードドライブから提供されたり、善意銀行へ預託された食材を活用しています。ギャンブル依存や家族関係の悪化、生活保護開始までのつなぎ期間、家計管理が困難なため生活困窮となった世帯などへの支援が多い傾向にありました。

また、年度内に繰り返し利用された方も一定数おられます。「自立に向けた生活再建への体制づくり」が目的の事業であるため、「回数制限が必要」との意見も出ていますが、生命維持の点で柔軟な対応が必要とされ、日々模索しながらの支援を行っているのが現状です。

※架け橋パントリープロジェクトの食材無料配布とは別の取り組みです。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
提供回数	5	5	4	2	2	1	0	4	2	5	4	8	42
													(61)

()中数字は前年度のもの



架け橋パントリープロジェクト



たくさんの「ありがとう」が届きました

活動目標⑥「困りごとを受け止めてつないでいけるしくみをつくろう」

<活動の目的・ねらい>

個々の生活課題や、各種団体の課題などを話し合える場が少なく、それぞれで課題を抱え込んでしまっている現状があります。地域で起こっていることに目を向け、課題を整理して解決に向けた取り組みができるように、住民相互の話し合いの機会を増やしていきます。

■庁内ネットワーク会議

取り組みの内容 (成果・課題・今後の方向性等)	<p>価格高騰による生活への影響が長期化する中で、各関係機関が実施している制度や支援施策について情報を共有しました。お互いにどこにつなげばいいのかわを確認し、誰も取り残すことがないように支援体制を整えています。5年度は「庁内連携のあり方」について検討しました。声なき声を拾い上げる取り組みをどのように広げていくか、また相談者に寄り添い続けることができるしくみも検討しています。</p> <p>【実施回数：2回】</p>
----------------------------	---

●包括的な相談支援ができる体制を考えていこう 【補助金・受託金】

■生活困窮者自立支援法に基づく自立相談支援事業：市へ職員1名を出向

5年度の相談傾向として、「病気」「家計管理」「家族関係・家族の問題」「本人の能力の課題」についての相談が多く寄せられました。

特に家族関係・家族の問題による相談内容が多く、離婚により子どもを見てくれる人がいないため自身の就労形態を変えざるを得なくなったこと、インフルエンザに罹患したことによる収入減少、家族が高齢になり子どもの異変に対してどうしたらいいのかわからず支えきれなくなり支援者を通じて相談に至るなどのケースがありました。また部屋もゴミが散乱し、生活困窮状態に慣れてしまいつつから着手すればいいのかわからず自分の生活を維持する力が低下しセルフネグレクトになっている人も多くみられました。

今後は親亡き後、相談者が支援を受けながら日常生活能力を培いながら成功体験を増やしていくことが大切です。また、相談者の抱える課題が多岐にわたるため関係機関でチームを組み相談者への伴走的な支援ができる体制が必要です。

自立相談支援機関への相談経路の大半が関係者や関係機関からの紹介を通じてであり、相談者が置かれている状況からいち早く脱却するためには早期につながるしくみや相談窓口の周知が必要です。今後も相談者の声なき声を拾い上げ、各課や関係機関と連携し、相談者に寄り添いながら必要な情報を届け続けると共に、必要な支援につなげていく取り組みを行います。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談者数	3	5	3	4	3	4	3	3	1	4	5	3	41 (74)

※（ ）中数字は前年度のもの



《相談者が抱えている問題》※一つのケースで複数の問題を抱えています

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
病 気	障 害 (手帳有)	障 害 (手帳未取得)	メンタルヘルスの課題	住まい・ホームレス	経 済 的 困 窮	(多重・過重)債務	家計管理の課題	就職活動・定着困難	生活習慣の乱れ	社 会 的 孤 立	家族関係・家族の問題	介 護	中 卒 ・ 高 校 中 退	ひ と り 親	D V ・ 虐 待	刑 余 者	コミュニケーションが苦手	本人の能力の課題その他	合 計
15	7	7	8	6	39	9	18	28	4	3	25	7	0	3	3	0	2	33	217

《支援内容》

情報提供・相談のみ	他制度・機関につなぐ	同意に向けて取り組む	プラン策定※	スクリーニング前	計
30	10	0	1	0	41

※前年度受付分及び再プランを含む

《地域別内訳》

緑	西 淡	三 原	南 淡	島 外	計
7	8	10	15	1	41

■基幹相談支援センター【市委託事業】

相談支援事業所からの相談やご本人、ご家族からの相談が増えています。支援困難ケースとして、相談支援専門員の後方支援として関わるケース、様々な申請や手続きなどの同行には緊急度に応じながら対応しました。また、家族支援として地域包括からつながってくる相談も増えています。継続して関わり続けることができるよう、相談支援体制を整備していくことが必要です。会議への参画や勉強会、研修会の実施機会も増えており、基幹相談として求められている役割が増えてきています。

《相談対応件数》

対象	実人員		身体障害		重症心身障害		知的障害		精神障害		発達障害		高次脳機能障害		その他	
	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児
相談件数	45	6	1	0	0	0	11	4	27	0	0	1	0	0	6	1

《会議への参画》

会議の内容	自立支援協議会 相談支援事業所部会 医療的ケア児等の生活支援検討会事務局会議 医療的ケア児等関係者会議 県基幹相談支援センター連絡会 三市基幹相談支援センター連絡会 三市基幹打合せ 南あわじ市相談支援事業所連絡会 淡路精神障害者地域移行戦略会議 南あわじ市障害福祉計画策定委員会 南あわじ市教育と福祉連携会議 ケース会議 淡路圏域医療機関ソーシャルワーカー会議 日中サービス支援型グループホーム入居に向けたアセスメント会議
-------	---

《勉強会・研修会の実施》

内容	兵庫県相談支援初任者研修（事前打合わせ、ファシリテーター） 医療的ケア児等コーディネーター養成研修（事前打ち合わせ、ファシリテーター） 医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修 医療的ケア児等の生活支援検討会研修（打ち合わせ） 医療的ケア児等の生活支援検討会 ガイドブック班（打ち合わせ） 相談支援事業所部会研修会 相談支援フォローアップ研修 障害者虐待対応力向上研修 サービス管理責任者連絡会児童分野研修会 南あわじ市相談支援事業所情報交換会 事例検討会 こども連絡会研修会 アルコール研修会 短期入所相談会 訪問型事例検討会
----	--

■ 総合相談

生活の困りごと全般に関する「一般相談」は、これまで同様に「生計」に関する相談が約半数を占めました。ただ、その理由（原因）が社会情勢である「物価高騰」によるものではなく、家計管理の課題が常態化していたり、障がいや疾病が起因している世帯からの相談が主であったことから、今後も地域や多機関が関わっての相談体制の維持が必要です。

4年度と違う点は「みどり」が3番目から2番目に多いエリアになったことです。他のエリアでは前年度と同様の相談件数でありましたが、2倍近くに増えています。理由としては、本人や世帯員の変化による影響を受けた世帯が多いことが挙げられます。

社協事業の相談件数は4年度より減少しましたが、対応に大きな変化はなく、新型コロナウイルス感染症が5類移行し地域活動再開が安定している結果と分析しています。

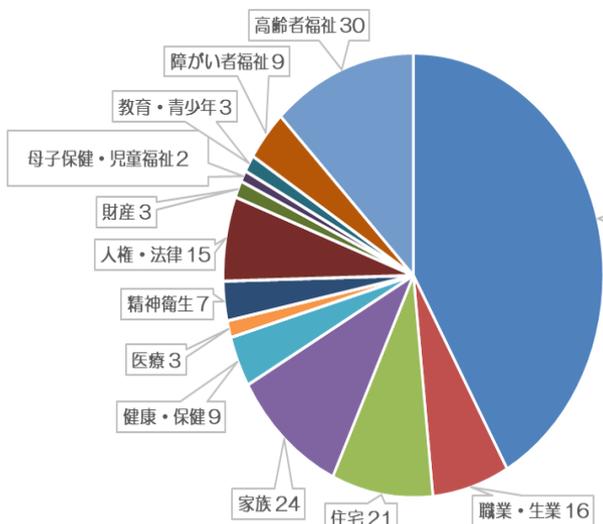
一般相談



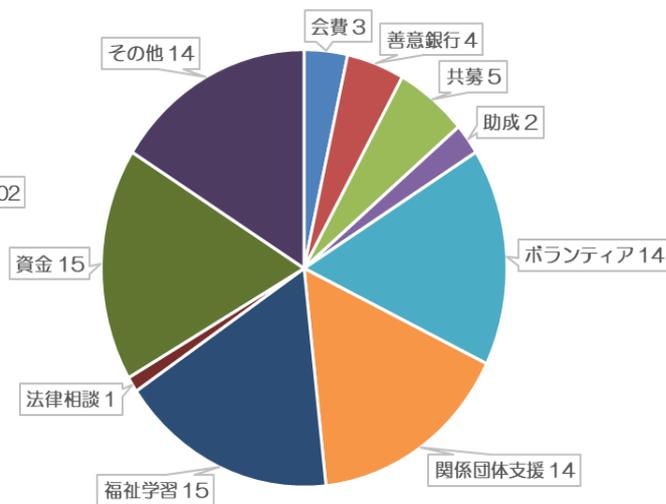
社協事業



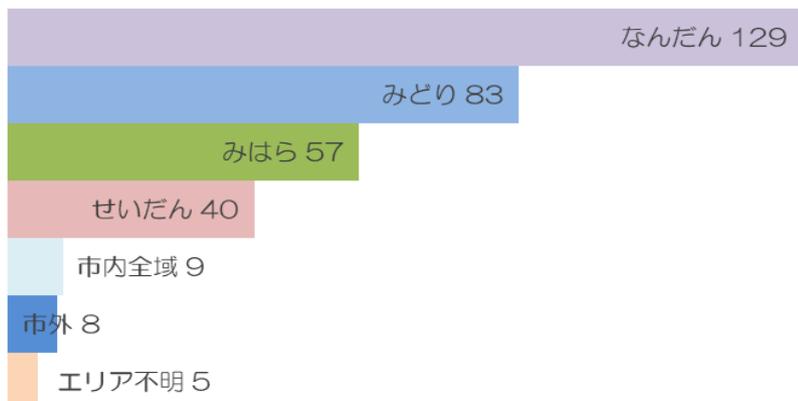
一般相談内訳



社協事業内訳



エリア別相談内訳



※効果的に分析を行うため、今年度は「コロナ特例貸付」や「日常生活自立支援事業」の利用者からの相談は含めていません。

《相談経路》

相談者	本人	家族	地域	社協	市役所	他機関	その他	合計
件数	199	17	32	9	38	25	11	331件

解決	110	→	コミュニティワーカー、生活支援COの活動	29
社協による相談の継続・支援	132		ボランティア活動の紹介、助成等	13
他機関等の紹介、引き継ぎ	85		講座、物品貸し出し等地域支援活動	2
その他	4		福祉学習支援	15
↓			社協内での調整	27
地域	11		生活福祉資金	8
市役所	50		食料支援	8
他機関	9		法律相談等権利擁護	10
その他	15		その他	20

●困りごとを共有して支え合いを考える場をつくろう

■住民と協議できる地域ケア会議

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	旧町単位ごとに毎月1回地域ケア会議に参加し、その地域で抱える高齢者等のケースについて検討しています。支援困難事例等を共有して、関係者のネットワークづくり、個別ケースを通じての地域の課題の把握を行っています。
---------------------------	---

●困っている人を見つけたらほっとかない【会費】

■はなす会（座談会）

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	5月に伊加利地区で互近所推進（見守り）会議の中で、支え合いマップづくりを行いました。日常の見守り活動が災害時の見守りへつながるよう、せいだん支部運営委員会では防災研修会を実施し、防災士の方よりお話を伺いました。こうした研修会を重ね、地域で話し合う「はなす会」へとつなげていきます。
---------------------------	--

■自治会との協働

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	倭文地区土井自治会で、兵庫県が実施している「持続可能な多自然地域づくりプロジェクト事業」を活用した「集落カルテ」の作成に参加しました。市民協働課からの働きかけを受けて、作成作業に関わり、自治会のみならず10年後の自治会の将来像を共有する機会となりました。
---------------------------	---

■民生委員・児童委員協議会との協働

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	毎月、定期的開催される旧町単位ごとの民生委員・児童委員協議会役員会に出席し、顔の見える関係性をつくるとともに地域の課題や個別の困難事例等を共有・検討しています。つながることで、民生委員から相談が多く寄せられ、緊急対応や福祉サービスへのつなぎなど連携がスムーズに行われるようになりました。今後は全地域で同じような参画ができるよう調整していきます。
---------------------------	--

■ 社会福祉法人連絡協議会：ほっとかへんネット

「誰もほっとかへん」孤立する人がないまちづくりを進めるため、市内11の社会福祉法人が地域課題の解決に向けた検討を行っています。社会福祉法人の強みを生かした支援体制を構築できるように活動を続けています。

取り組み内容
(成果・課題・
今後の方向性
等)

- 実務担当者会の開催
- 推進会議の開催
- 研修会の実施
- 市と合同で福祉関係者へのアンケート・ヒアリング調査を実施
- 視察研修の受け入れ（京都府宮津市）
- 兵庫DWATとして被災地への派遣
- 社会福祉士現場実習の受け入れ（武庫川女子大学より12名）

地域課題に向き合いながら、新たな活動を生みだしていけるように地域貢献のあり方を協議しています。昨年度に引き続き、長期休暇中の小学生を対象に勉強会（ほっとねっと勉強会）や、福祉まつりで「ほっとかへんネット」の啓発活動に取り組みました。また、5年度初めて実習生の受け入れを行い、人材確保につなげていきたいと考えています。



推進会議



DWAT養成研修



DWAT登録員の派遣



ほっとねっと勉強会



実習生の受け入れ



総合防災訓練への参加

福祉相談会

活動目標⑦「生活を支えるサービスを充実させよう」

＜活動の目的・ねらい＞

8050問題やひきこもり、生活困窮などこれまで以上にさまざまな生きづらさを抱えた人や福祉課題を抱える家庭が増えています。介護や支援が必要な人に必要なサービスが届くよう、また、制度だけでなくニーズに応じた生活支援サービスの開発に取り組みます。

●介護や支援が必要な人に必要なサービスが提供できる体制づくりをしよう 【自主財源・受託金】

■居宅介護支援事業所

4年度からのデスクワークの効率化を基盤とし、ケアマネジメントの質の向上に努めました。

ケアマネジメントの質の向上では、職員それぞれが経験年数を重ねてきていますが、改めてケアマネジメント技術の基礎を学ぶため、ケアプランの作成時の視点を確認し、より利用者本位のプラン計画について理解を深めました。6年度のBCP（事業継続計画）の策定義務に伴い、改めて緊急時でも、サービス、対応を継続できる体制や仕組みづくりについても話し合い、体制を整えてきました。

6年度は、介護保険改定の年となるため、制度の理解を深め、よりよいケアマネジメントにつなげていけるように努めていきます。

《ケアプラン作成件数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	対前年度比	
利用者数	150	150	147	145	141	134	139	142	141	141	132	138	1,700 (1840)	92.3%	
要介護度別利用者内訳	支援1	26	25	29	23	23	23	24	25	29	30	26	28	311 (331)	93.9%
	支援2	39	41	36	41	38	36	37	37	33	33	35	36	442 (454)	97.3%
	1	33	33	33	33	32	29	29	31	33	32	28	27	373 (471)	79.1%
	2	30	30	28	27	28	26	27	27	24	24	23	25	319 (319)	100%
	3	14	12	10	9	9	9	11	12	11	12	12	13	134 (166)	80.7%
	4	7	8	10	11	10	10	10	9	9	9	7	8	108 (83)	130.1%
	5	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	13 (16)	81.2%

※合計欄下段（ ）中の数字は、前年度のもの

《新規契約件数》

（主な内訳）窓口：3件、電話：5件、利用者家族：4件、地域包括：3件、病院：3件

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計（件）
総合事業	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2 (5)
介護予防	1	2	0	0	0	0	1	2	1	1	0	1	9 (14)
介護	1	1	1	1	2	1	1	1	2	1	0	1	13 (34)
計	2	4	1	1	2	1	2	3	4	2	0	2	24 (53)

《解約件数》

(主な内訳) 死亡：7件、施設入所：8件、長期入院：13件

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(件)
総合事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2 (0)
介護予防	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	4 (4)
介護	0	0	3	1	3	3	2	3	1	2	4	1	24 (22)
計	1	0	3	1	3	4	3	4	1	3	5	2	30 (26)

※合計欄下段()中の数字は、前年度のもの

《ケアマネ1名あたり取扱い件数》

{要介護利用者数+(介護予防利用者数×1/2)}÷職員数(常勤換算)

※総合事業のみ利用の利用者は含めない

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
件数	35.15	34.53	33.75	33.59	32.96	31.09	32.03	32.28	32.34	31.71	30.16	31.88	32.62件
職員数 (常勤換算)	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2名

《認定調査受託件数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(件)
調査数	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	2	3	11 (25)

※合計欄下段()中の数字は、前年度のもの

■訪問介護事業所

①法人内研修以外でも、サービスの質の向上、職員個々のスキルアップを図るため、月1回の定例会内での研修実施、外部研修を受講をしました。今後は、それぞれが得た学びをフィードバックする機会が持てるような取り組みを検討していきます。

②6年4月から義務化となる災害時におけるBCP(事業継続計画)、感染症発生時におけるBCPを策定しました。感染症や災害が発生した場合であっても、サービスが安定的・継続的に提供されるよう定期的に計画を見直し、また、研修・訓練を実施していきます。

③介護業界において人手不足のなか、ヘルパーはとりわけ深刻な人手不足で、また、どの事業所においてもヘルパーの高齢化がすすんでいます。訪問介護は地域包括ケアシステムの要で、ニーズが増大する今後はその重要性が一段と増していきます。ご利用者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、他の事業所や行政と協働していきます。

◎定例会内で実施した研修

月	内容	月	内容
4月	報連相について	9月	糖尿病について
5月	訪問介護でできること・できないこと	12月	事故防止について
7月	法令遵守とコンプライアンス	1月	認知症ケア
8月	緊急時の対応	3月	接遇について

◎外部研修

職種	内容	月
管理者	社協経営セミナー	6
サ責・訪問介護員	介護技術セミナー	6
サ責	サービス提供責任者研修（全6日）	8～10
サ責・訪問介護員	ひょうごノーリフティングケア地域研修	11
訪問介護員	コミュニケーション技術の向上	11
サ責・訪問介護員	パッククッキング講座	11
管理者・サ責・訪問介護員	南あわじ市在宅医療・介護連携研修会	11
サ責	介護実践におけるチームマネジメント	12
訪問介護員	職業倫理（接遇マナー等） 理念の理解	12
管理者	ハラスメントについて	1
管理者	BCP作成について①	2
管理者	BCP作成について②	3
管理者・サ責・訪問介護員	精神障害者の生活を支えるための心構え	3
管理者	社協経営セミナー	3

○介護保険サービス

《要支援・要介護度別利用状況》前年度比98.5%

区分 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	11	10	10	10	10	10	9	9	11	9	8	9	116 (148)
要支援2	18	20	20	21	19	20	22	21	20	20	23	22	246 (209)
要介護1	14	14	14	14	12	11	11	12	13	14	12	11	152 (168)
要介護2	10	9	8	9	9	7	7	6	5	5	6	6	87 (120)
要介護3	9	8	8	8	8	8	7	6	7	6	6	7	88 (75)
要介護4	4	4	5	5	5	6	7	7	7	8	9	10	77 (61)
要介護5	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24 (21)
計	68	67	67	69	65	64	65	63	65	64	66	67	790
令和4年度	64	65	67	68	68	70	72	71	67	62	63	65	802

《訪問回数》前年度比99.1%。

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和5年度	687	699	710	702	698	682	722	669	687	645	660	657	8,218
令和4年度	683	709	733	748	709	685	719	698	696	601	589	715	8,285

《新規利用状況》

区分	月												計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
要支援1	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	6 (6)
要支援2	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	2	0	6 (1)
要介護1	1	1	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	5 (3)
要介護2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2 (3)
要介護3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2 (4)
要介護4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	4 (3)
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 (0)
計	3	2	3	2	0	1	1	1	2	3	5	2	25
令和4年度	3	1	4	2	2	0	2	1	0	1	1	3	20

《利用終了状況》

区分	月												計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
要支援	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	1	1	6
要介護	1	5	0	0	3	2	2	1	0	1	1	1	17
計	1	5	0	0	3	3	3	1	1	2	2	2	23
令和4年度	2	1	0	1	0	0	2	5	3	1	0	2	17

《解約理由》

区分	月												計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
死亡	0	0	0	0	1	0	1	1	1	1	1	0	6
特養入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
老健入所	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
入院	0	3	0	0	2	1	1	0	0	1	1	1	10
ロングショート利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
その他	1	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	5

《入院状況》

入院実人数25名、うち骨折8名、持病5名、肺炎3名、発病3名、感染症3名

	区分	月												計	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
令和5年度	要支援	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	1	5
	要介護	3	6	2	3	5	3	1	2	3	5	3	5	41	
令和4年度	要支援	2	3	7	4	3	2	1	1	1	2	2	2	30	
	要介護	1	2	1	0	5	3	5	4	3	4	4	4	36	

《地域別契約状況》（令和6年3月31日現在）

緑	12	件
西淡	14	件
三原	21	件
南淡	21	件
計	68	件

《居宅介護支援事業所別 依頼状況》（令和6年3月31日現在）

南あわじ市社会福祉協議会	36	件	E（三原）	9	件
A（緑）	4	件	F（三原）	4	件
B（緑）	6	件	I（南淡）	1	件
C（三原）	2	件	J（南淡）	1	件
D（三原）	2	件	南あわじ市地域包括支援センター	3	件
計				68	件

○障がい福祉サービス

《障がい支援区分別利用状況》前年度比97.2%。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
区分1	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	
区分2	13	13	13	13	13	13	13	14	14	13	14	13	
区分3	15	13	12	11	12	11	11	10	10	10	10	10	
区分4	2	2	4	3	3	4	5	5	5	5	4	3	
区分5	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
区分6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
計	37	35	37	35	36	36	37	36	36	35	35	33	428
令和4年度	35	38	37	37	38	36	34	35	37	37	38	38	440

《訪問回数》前年度比101.4%。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和5年度	666	676	671	635	673	650	663	617	612	593	571	570	7,597
令和4年度	608	649	609	633	660	616	591	609	646	585	610	675	7,491

《契約・休止・入院・終了状況》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
契約	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
休止	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
再開	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入院	1	1	1	2	2	1	1	2	1	1	1	1	15
終了	0	2	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	5

《地域別契約状況》（令和6年3月31日現在）

緑	2	件
西淡	4	件
三原	17	件
南淡	12	件
計	35	件

《相談支援事業所別 依頼状況》（令和6年3月31日現在）

南あわじ市社会福祉協議会	27	件
A（三原）	2	件
B（三原）	2	件
C（洲本）	3	件
D（洲本）	1	件
計	35	件

○居宅生活支援事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	対前年度比
利用者数	2	5	5	2	2	4	6	3	5	2	3	5	44 (40)	110%
移動支援 延人数	3	10	14	7	3	12	14	10	12	7	5	9	106 (134)	79.1%
通所・通学 支援 延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2 (0)	

■相談支援事業所【委託相談】

障がいのある方の日常生活に関するさまざまな問題に対して相談支援を行っています。相談傾向をみると、「家族関係・人間関係に関する支援」が依然として多く、コロナ禍があげ、距離を取ることが可能だった人間関係から、密な人間関係への変化への戸惑いに関する相談が多く見られました。それに伴って、「不安の解消・情緒安定に関する不安」「生活技術に関する相談」も多くなっています。また、「保育・教育に関する支援」は依然と多い傾向にあり、就園や就学を見据えて、保護者のみならず、関係機関から相談に至るケースも多くなりました。

また、制度の狭間において、これまで相談機関に繋がらなかった方からの相談も多く、基幹相談と協力しながら、切れ目のない支援が提供できるよう努めました。

名称	開設日	時間
南あわじ市社会福祉協議会相談支援事業所	月曜日～金曜日	8時30分～17時15分

《過去5年間の相談者数》

対象	実人員		身体障害		重症 心身障害		知的障害		精神障害		発達障害		高次脳 機能障害		その他	
	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児
5年度	108	93	5	1	0	7	20	11	69	0	13	35	0	0	5	39
4年度	36	28	15	2	0	9	32	17	81	0	16	33	0	0	5	46
3年度	59	31	3	2	0	0	16	7	30	1	11	11	0	0	0	12
2年度	45	18	4	2	2	1	14	4	19	0	8	6	0	0	3	7
元年度	80	34	6	3	0	1	21	8	38	0	11	10	2	0	6	15

福祉サービスの利用等に関する支援	障害や病状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	その他	計
244	88	82	116	128	140	76	91	53	6	4	24	1,052
236	109	107	99	138	107	33	51	38	17	2	24	961

※下段数字は、前年度のもの

■障害者虐待防止センター【市委託事業】

名称	開設日	時間
南あわじ市障害者権利擁護センター	月曜日～金曜日	8時30分～17時15分 ※電話相談は24時間対応

《相談・通報者》

本人	家族	事業所	警察	医療機関	その他
0	0	1	0	0	1

《内容》

身体的	放棄放任	心理的	性的	経済的	その他
0	0	0	1	0	1

■相談支援事業所【計画相談支援・障害児相談支援】

《計画相談》

障害福祉サービスの利用を希望している方を対象に、相談支援を行っています。利用者によってモニタリング期間が違っているため、月ごとの件数にばらつきがあります。サービスを希望するものの、利用に至らなかったり、続けられなかったりすることもあるため、サービスにつなげるだけでなく、個別性を重視したケアマネジメントが求められます。

島外の就労移行事業所の利用を希望される新規相談が例年より多く見られました。オンラインでの職業訓練が可能であるため、自ら利用したい事業所を決めた上で、計画相談につながってくるケースが多くありました。また、就労継続支援や短期入所の利用希望も例年より多く見られます。今後も、関係機関とより連携したケアマネジメントが求められます。

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	5年度	56	58	58	50	61	54	57	58	51	52	58	60	673
	4年度	54	66	53	56	74	55	58	60	46	50	53	44	669

《児童相談》

発達に心配のあるお子さんの相談支援を行っています。手帳を持っていない未診断のお子さんのケースや、親子ともに支援が必要なケースがあります。お子さんのライフステージに応じた支援機関につなぎ、連携をとりながら支援をすすめています。

就園や就学についての相談のみならず、学級選択の相談も多くありました。学校や保育園から保護者の方に療育をすすめられたり、乳幼児健診から医療機関につながったケースで相談支援につながることも多くみられます。

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	5年度	32	32	42	37	32	37	39	47	38	43	29	56	464
	4年度	33	35	30	37	36	36	26	41	35	29	36	48	422

《地域移行支援》【事業収入(地域移行支援サービス費)】

入所施設に入所している障がい者、又は精神科病院に入院している精神障がい者について、住居の確保その他、地域における生活に移行するための活動に関する相談、地域移行のための障害福祉サービス事業所等への同行支援等行うものです。

現在、契約中のケースはありません。

《地域定着支援》【事業収入(地域定着支援サービス費)】

居家で単身で生活する障がい者が対象で、24時間365日住み慣れた地域で生活できるように、日常生活全般を支援を行うものです。

現在、契約中のケースはありません。

■なでしこデイサービスセンター【生活介護】

①稼働率減少の要因は、家族の体調不良による長期ショートステイ利用や、入所施設内でコロナ感染があったための利用控えなどです。臨時休所した日数は計2日（大雨警報、感染拡大防止）でした。前もって分かっている空きに対しては、空き情報を利用者者に周知しています。今後も継続し、稼働率・収入の増加へ繋げていきます。

②令和6年4月から義務化となる災害時におけるBCP（事業継続計画）、感染症発生時におけるBCPを策定しました。感染症や災害が発生した場合であっても、サービスが安定的・継続的に提供されるよう体制強化に取り組みます。

③物価高騰により、水熱費・ガソリン代・食材費の費用増加が課題となっています。食材については花壇に野菜を植え、利用者と共に育てる楽しみ、収穫する楽しみ、味わう楽しみを実感しました。身体障害者福祉協会から玉ねぎを寄附いただくなど、地域の方々にも支援頂いています。サービスの質を落とさないようにしながら、出来る限りの経費削減を図っていきます。

④100%定員を満たしているため、新規利用者を受けることができない状況が続いています。限られた社会資源をサービスを必要とする利用者にとってどうシェアしていくのが課題です。

⑤家族交流と家族支援を目的に、初めて「家族会」を開催しました。色々とお頂いたご意見やご要望を今後のサービスの質の向上につなげるとともに、6年度も引き続き家族交流・家族支援を行ってまいります。

《登録状況》

市別 利用者数	市別			新規	中止	終了
	南あわじ市	洲本市	計			
男性	5	6	11	0	0	0
女性	4	6	10			

《障害支援区分の状況》

区分 利用者数	区分				計	平均支援区分
	支援区分3	支援区分4	支援区分5	支援区分6		
男性	0	2	1	8	11	5.5
女性	0	2	2	6	10	5.4

《月別利用状況》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所した日数	20	21	21	20	20	21	21	21	20	20	21	20	246 (240)
実人数	21	20	20	20	20	20	21	21	21	21	20	21	20.50 (20.58)
延べ利用者数	183	192	194	183	173	174	189	196	197	154	172	184	2,191 (2166)
5年度稼働率(%)	91.5	91.4	92.4	91.5	86.5	82.9	90.0	93.3	98.5	77.0	81.9	92.0	89.1
4年度稼働率(%)	93.3	91.1	96.4	90.5	82.8	91.4	93.0	92.8	92.0	74.2	90.0	93.2	90.3

※合計欄下段()中の数字は前年度のもの

《曜日別利用登録数》 1日定員10名

年度 \ 曜日	月	火	水	木	金
令和5年度	11	11	9	10	11
令和4年度	11	11	9	10	11

《レクリエーション・行事》

コロナ前のように外出レクリエーションを2回実施できました。以前より課題であった余暇時間の過ごし方について、ミニレクリエーションを行うことで改善が図れています。

月	内容	月	内容
4月	お花見	10月	外出（買い物）
5月	野菜植え	11月	おやつ作り
6月	外出（イングランドの丘） 工作（多肉植物の寄せ植え）	12月	クリスマス会
7月	おやつ作り	1月	書初め
8月	夏祭り	2月	節分（豆まき）・おやつ作り
9月	野菜植え	3月	工作（フラワーメモスタンド）



【児童発達支援・放課後等デイサービス全体総括】

新型コロナウイルス等の感染症罹患が理由で利用中止になったケースが多く、稼働率は0.9%減、報酬は1.2%減でした。

令和6年4月から義務化となる災害時におけるBCP（事業継続計画）、感染症発生時におけるBCPを策定しました。

4年ぶりに家族交流や家族支援を目的に「おしゃべり会」を開催しました。家族同士が同じ立場で思いを語り合うことでつながりができ、支え合うことができるよう6年度も継続して実施します。

【児童発達支援・放課後等デイサービス全体課題】

- ①「アプリケーション・ソフトウェア」を有効活用し支援の幅を広げます。
- ②「WISC-V」や「新版K式発達検査2020」の検査精度を高め、検査結果を子どもたちの支援に反映できるようにします。
- ③「おしゃべり会」を年2回以上開催し、保護者が気軽に話せる場づくりや保護者がつながるきっかけづくりをするとともに、ペアレントトレーニングなど新たな家族支援の在り方を検討します。
- ④市が実施する健診等に心理士を派遣し、行政と子どもをとりまく状況を共有し連携を強化します。
- ⑤報酬改定に沿ってサービス内容を検討し、安定した運営ができるよう体制を整えます。
- ⑥策定したBCPに基づき、災害や感染症が発生してもサービスが安定的・継続的に提供されるよう、体制強化に取り組みます。

☆児童発達支援

【総括】

新規利用者は23名（9名増）、登録者数は2名増、延べ利用者数は81名減、報酬は5.4%減でした。新型コロナやインフルエンザ、胃腸炎等の感染症が季節を問わず保育所等で広がりを見せ、利用中止になるケースも多く、下半期の登録者数は増えたものの報酬増にはつながりませんでした。

【課題】

登録者数が40名になると安定した報酬が見込めるため、日頃から相談支援事業所と情報共有したり、自立支援協議会の活動を通じて関係機関と連携を図るとともに、職員のスキルを高め保護者の口コミによる利用者獲得を目指します。

《登録状況》

利用者数	市別				計
	南あわじ市	洲本市	淡路市	島外	
男児	21	13	1	1	36
女児	4	2	0	0	6

《月別利用状況》 ※稼働率は、児童発達支援と放課後等デイサービスの両サービス合わせたもの

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所した日数	19	18	21	20	19	19	19	18	20	19	19	20	231 (237)
実人数	23	24	25	25	29	31	31	34	34	37	37	42	372 (386)
延べ利用者数	64	62	67	69	71	76	69	83	88	83	88	98	918 (999)
5年度稼働率(%)	77.5	76.5	71.0	79.5	79.5	76.7	79.0	84.5	86.0	82.0	83.3	91.0	80.2
4年度稼働率(%)	75.2	88.0	77.7	77.3	78.0	82.4	73.8	86.2	77.0	75.0	91.0	91.8	81.1

※合計欄下段()中の数字は前年度のもの

《その他の活動状況》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業所見学	1	1	3	4	0	3	6	2	2	1	1	2	26 (24)
インテーク	0	0	0	3	3	1	1	2	2	2	0	1	15 (22)
保育所等訪問	1	0	1	4	1	0	1	1	0	2	0	0	11 (15)
個別支援会議	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	3 (7)
個別相談	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0	1	0	5 (10)
発達検査	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	6 (10)

※合計欄下段()中の数字は前年度のもの

☆放課後等デイサービス

【総括】

新規利用者は9名(4名増)、登録者数は16名増、延べ利用者数は28名増、報酬は4.6%増でした。年度当初には20名が児童発達支援から移行したことにより、安定した利用者数は確保できています。また、共働き世帯の利用が祝祭日に集中し、祝祭日の稼働率は112.1%となっています。

【課題】

登録者数が増えても利用者のニーズに応じた療育回数を担保できる体制を整えること、中学校入学後の継続利用希望者や思春期から青年期に向かう児童の心理面のフォローは継続した課題です。

《登録状況》

市別 利用者数	南あわじ市	洲本市	淡路市	計
男児	42	33	2	77
女児	13	11	0	24

《月別利用状況》 ※稼働率は、児童発達支援と放課後等デイサービスの両サービス合わせたもの

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所した日数	17	16	17	17	16	18	17	16	16	16	17	17	200 (205)
実人数	77	79	73	81	78	73	80	82	83	74	78	84	942 (848)
延べ利用者数	91	91	82	98	88	85	89	86	84	81	87	93	1,055 (1,029)
5年度 稼働率(%)	77.5	76.5	71.0	79.5	79.5	76.7	79.0	84.5	86.0	82.0	83.3	91.0	80.2
4年度 稼働率(%)	75.2	88.0	77.7	77.3	78.0	82.4	73.8	86.2	77.0	75.0	91.0	91.8	81.1

※合計欄下段()中の数字は前年度のもの

《その他の活動状況》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業所見学	1	1	1	2	0	1	4	1	0	0	0	1	12 (4)
インテーク	0	1	2	0	0	1	0	1	0	1	0	0	6 (4)
学校等訪問	0	2	0	2	0	1	1	4	1	1	1	0	13 (12)
個別支援会議	0	0	0	3	4	0	1	1	1	0	0	1	11 (13)
個別相談	0	0	1	0	0	1	2	1	0	1	2	0	8 (15)
発達検査	0	0	0	1	0	2	0	0	1	2	0	0	6 (6)

※合計欄下段()中の数字は前年度のもの

●地域で生活を支えるしくみをつくろう 【共同募金配分金】

■制度外サービスの創出

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	ニーズ調査の結果や、個別の相談対応を通じて把握した住民の声に対応できるようにしています。新たな活動を生み出すために、行政・ボランティア団体や関係機関と情報共有し、把握した地域課題に対応できる取り組みについて検討していきます。
---------------------------	--

■オール社協会議

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	組織内での多職種協働が図れるよう、毎週火曜日に地域別を実施しました。地図を用いてご利用者様宅や社会資源がわかるように見える化する作業や、気になるケースの共有なども行いました。地域の情報を組織の中で一元化することで、制度だけでは対応できない世帯の把握などにも努めました。
---------------------------	--

活動目標⑧「災害にも強いつながりづくりをすすめよう」

<活動の目的・ねらい>

突発的な災害が起きると日常生活への住民の不安や福祉課題が表面化し、混乱も生じます。一刻と情報も更新されていく中、行政やボランティア、関係団体と協働し、日頃から防災意識を高め、備えや地域での助け合いを啓発し、災害に強い地域を目指します。

●災害時に対応できるしくみをつくろう

■災害救援マニュアルの改訂

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	定期的に災害対策班にて防災ワーキング会議を開催し、総合防災訓練、内部研修の内容について協議を重ねました。 内部研修では、大規模災害時に自宅からの通勤ルートで起こりうる被害や社協まで到着する時間などを共有し、災害時の体制づくりについて協議しました。 また、災害時の備蓄として長期保存水やアルミシート、ランタンなどを購入しました。
---------------------------	---

■防災訓練への参画

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	11月19日の総合防災訓練では、社会福祉法人連絡協議会、ひのきしん隊と連携し、災害ボランティアセンター設置運営訓練としてニーズ調査の訓練を実施しました。また、くらす連絡会と一緒に参加し、当事者の災害時における避難方法などについて話し合いを行いました。大規模災害が発生した際、スピーディーに対応できるよう、今後も、社会福祉法人連絡協議会などと連携しながら訓練を重ねていきたいと考えています。
---------------------------	--

●防災について考える機会をつくろう

■防災研修会の実施

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	せいだん支部では、9月8日に防災・減災研修会を実施しました。北淡震災記念公園の語りべボランティアと防災士の方からお話を伺い、過去の震災からの教訓を学ぶとともに、日頃からの備えの重要性を再確認する機会となりました。 みどり支部では、9月2日に「ぼうさいカフェin緑」を実施しました。沼島地区での要配慮者個別避難計画作成実践をもとに、日ごろの見守り支え合い活動、見守り体制を考える機会となりました。約50名の参加があり、事例発表とグループワークを通じて日常のつながりの大切さについて共有することができました。
---------------------------	---

■防災意識の啓発

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	1月に発生した能登半島地震から、自助・共助の力を強化していく取り組みを実践していくことが求められています。発災以前から、地域の集いの場や「ふれあい・いきいきサロン」に訪問し、防災対策の必要性を啓発していました。5年度は、災害時に役立つパッククッキングの啓発に重点的に取り組みました。6年度も、防災を身近な地域で考え・話し合える機会ができるように働きかけていきます。
---------------------------	--

●「支え合い（防災）マップ」づくりに取り組もう 【会費】

■支え合い（防災）マップづくり

取り組み内容 （成果・課題・今後の方向性等）	平成29年から支え合いマップづくりを推進しています。マップづくりでは、普段話す機会の少ない支え合いや防災について話し合い、防災意識を向上させるきっかけとなるように働きかけます。 これまで大きな災害が少なかった地域では防災意識が低く、どう自分ごととして考えてもらえる働きかけができるかが課題となっています。今後も、行政と連携し住民へ意識啓発を行っていくツールとして支え合い（防災）マップづくりを推進していきます。
---------------------------	--

■支え合い（防災）マップづくりの実施

月日	内 容	参加者
R5.5.19	伊加利地区地域づくり協議会・ご近所見守り推進委員会の研修として実施 ①避難所、②危険箇所、③空き地、④空き家、⑤一人暮らし高齢者、⑥気になる世帯、⑦地域のつながりがある地区へのマーキングと情報共有	30名
R6.2.16	「持続可能な多自然地域づくりプロジェクト事業」倭文地区土井自治会での集落マップづくり 自治会・県・市民協働課とともに①「今」の集落マップ、②「10年後」の集落マップを作成。地域の担い手減少にともなう自治会運営についての話し合い	約20名



ぼうさいカフェin緑



支え合いマップづくり

活動目標⑨「新しい活動を生み出そう」

<活動の目的・ねらい>

生活スタイルの変化や新型コロナウイルスの出現により、人とのつながりや活動の形が大きく変わりました。今あるつながりを切らさないように、そして地域の現状や課題を把握しながら、これまでとは違う新しい形での、つながり、支え合いづくりをすすめていきます。

●新しい活動を生み出す話し合いの場をすすめよう 【会費】

■地域福祉推進計画の推進と評価

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	第4次地域福祉計画に沿った活動の推進、また年度ごとに事業計画を立て、報告を行っています。計画書に明記していても着手できていないこともあるため、なぜ取り組めなかったかを検証し、評価・見直しを行う必要があります。6年度が5か年計画の中間期に当たるため、1つ1つの活動の点検を行っています。
---------------------------	--

■包括的支援体制に向けた検討

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	制度の縦割りによる対応を包括化し、重度化する前に早期発見・早期対応ができるしくみとして、包括的支援体制の構築が求められています。5年度は、県社協の「重層的支援体制整備事業4者協議モデル事業」により、県・県社協・市・市社協での協議を7回行いました。 地域ごとの活動を振り返り、どこに課題があるのか、どこと協働していく必要があるのかが明確になりました。これらを基に、地域のネットワーク形成図を作成しました。6年度に向けては、圏域を意識した活動を推進し、ネットワークを機能させていくしくみを引き続き検討していきます。
---------------------------	--

月日	内容	参加者
R5.6.23	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み状況説明（南あわじ市、南あわじ市社協） ・意見交換、アドバイザーからの助言 	アドバイザー1名、県2名、県社協2名、市民福祉部4名、市社協3名
R5.9.4	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みの進捗状況について（相談支援従事者へのアンケート、ヒアリング結果ほか） 	アドバイザー1名、県2名、県社協2名、市民福祉部3名、市社協3名
R5.10.2	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の協同力のアセスメントについて意見交換（三原地区、西淡地区） 	アドバイザー1名、県2名、県社協2名、市民福祉部4名、市社協7名
R5.10.13	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の協同力のアセスメントについて意見交換（南淡地区、緑地区） ・地域の協同力アセスメントの振り返り 	アドバイザー1名、県2名、県社協3名、市民福祉部4名、市社協5名
R5.11.22	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体セルフチェックの結果について ・3つの点検からネットワーク形成図に至る課題の意見交換 	アドバイザー1名、県2名、県社協2名、市民福祉部4名、総務企画部1名、市社協5名
R5.12.18	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク形成図づくりに向けた具体的な検討課題について ・ネットワーク形成図の作成について 	アドバイザー1名、県2名、県社協2名、市民福祉部5名、総務企画部1名、市社協6名
R6.2.7	<ul style="list-style-type: none"> ・前回のネットワーク形成図（案）の課題感と仕上げについて ・ネットワーク形成図を機能させるための取り組み課題について 	アドバイザー1名、県2名、県社協2名、市民福祉部5名、総務企画部1名、市社協6名

●さまざまな人・団体との新しいつながりを広げよう

■福祉分野以外とのネットワーク強化

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	地域福祉の推進には、幅広い主体や社会資源がつながるしくみが必要です。具体的な取り組みには至っていませんが、今後は司法の専門職や企業、NPOなどとのネットワークを構築していけるよう取り組んでいきます。異業種交流で新たな視点を取り入れた活動を展開していきます。
---------------------------	--

■移住してきた方との地域での交流の場の検討

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	「移住者や若者の地域参加」をテーマにみはら支部、なんたん支部合同での地域福祉フォーラムを開催し、淡路島に移住してきた若い世代や就業者の取り組みを報告していただきました。今後は、移住者同志のネットワークづくりなど、地域での交流の場を展開していきます。
---------------------------	--

●地域の資源や情報を見える形で整理しよう

■ニーズ調査の実施

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	市と「ほっとかへんネット南あわじ」が合同で、市内の相談支援従事者を対象にアンケート調査、ヒアリングを実施しました。福祉専門職が抱えている課題や市内の現状を共有し「ほっとかへんネット」としてできること、社協としてできることを検討しました。従来の枠組みだけでは活動を推進できない内容については、6年度にプロジェクトを立ち上げ具体的な取り組みを進めていきます。(免許返納者を対象としたカフェ等の実施)
---------------------------	---

■地域の活動の場パンフレットの作成

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	地域活動の場として、「ふれあい・いきいきサロン」の開催場所、またボランティアグループの活動状況がわかるパンフレットを作成しました。「集う・活動する」ことの効果や重要性をお伝えできるものとして、また新たな活動を生み出すきっかけになるように活用していきます。
---------------------------	---



4者協議のようす



「地域活動の場」パンフレット

◎「活動をすすめるための組織基盤づくり」

南あわじ市の地域福祉をすすめるため、計画的に職員を採用し配置するとともに、必要な専門性を身につけられる機会をつくります。また、役職員がともに福祉目標の実現に向けてすすめるよう、理事監事会、評議員会の活性化を図ります。

●職員の人材確保と育成をすすめます

■人員配置の検証に基づく職員採用

《職員採用状況》

採用年月日	部署	職名	氏名	雇用形態	備考
R5.4.1	地域生活支援部	コミュニティワーカー	池田裕文	常勤職員	※退職
R5.4.1	地域生活支援部	相談支援専門員	山田優子	常勤職員	

■研修計画に基づく研修の実施

研修班を中心に年間計画を立て、内部研修を企画・実施しています。部署を超えて共に考えたり共有したりする機会を持つことで、職員のレベルや法人内の質の向上を図っています。

外部から届く研修の案内は全職員に周知し、上席から研修受講を指示する以外にも、自ら学びたいという意思を尊重するようにしています。「研修受講準備&報告書」のシートを用いて研修受講前には目標を事前に記入し、研修後に学んだこと・事前目標の評価・今後職務に活かせる点について記入、提出し、上席がコメントを記入して返しています。また、内部で伝達研修を行ったり、内部研修で受講したことを活かすこともあります。

《内部研修》

月日	研修テーマ	出席者数	場所
R5.5.23	安全運転講習	24	203会議室
R5.6.27	法令遵守とコンプライアンスについて	35	203会議室
R5.7.3	西宮市社協視察報告	31	203会議室
R5.10.24	大人の発達障害について	38	203会議室
R5.11.28	感染症&食中毒対策について	37	203会議室
R5.12.26	災害対策研修	26	203会議室
R6.2.27	職場でのハラスメントの防止に向けて	36	203会議室
R6.3.26	「社協虐待防止指針」について	38	203会議室

《外部研修等》

月日	研修等の名称	参加者	集合・オンラインの別
R5.4.27~28	令和5年度社会福祉協議会新任職員研修（全2日間）	山田・池田	集合
R5.5.26	令和5年度淡路障害者自立支援協議会基礎研修会	中野陽・山田	集合
R5.5.31	淡路島の社会福祉協議会職員協議会第1回業務研究会	新地・奥本他9名	集合
R5.6.2	社協経営セミナー（第1回） 「介護保険の見直しとポイントと今後の社協の在宅サービスの方向性」	山口、平見、森、松本	オンライン
R5.6.16	令和5年度生活福祉資金基礎研修	山本	集合
R5.6.22	令和5年度クローバーペアレントトレーニング研修会	北川	集合

R5.6.23	安全運転管理者等講習会	長井	集合
R5.6.24	介護技術セミナー	濱中・三宅	集合
R5.7.1~2	SST（ソーシャルスキルトレーニング・社会的スキル訓練）講習会	藤本	集合・オンラインの別
R5.7.4	令和5年度第1回洲本市特別支援教育コーディネーター研修会	北川	集合・オンラインの別
R5.7.6	緑民生委員児童委員視察研修 NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝	長井・池田	集合
R5.7.7	「子ども食堂」との協働実践研修会	奥井・箕浦	オンライン
R5.7.7	令和5年度こども連絡会支援者研修会	新地・中野陽・山田・北川	集合
R5.7.12	「誰一人取り残さない」防災研修	新地・川口・池田	オンデマンド配信
R5.7.14~	令和5年度相談支援スキルアップ研修(全3回)	奥井	集合
R5.7.15~	令和5年主任介護支援専門員研修（全12日間）	濱田	集合
R5.7.21	淡路島の社会福祉協議会職員協議会第2回業務研究会	新地・奥本 他8名	集合
R5.7.23	2023年度障害者虐待対応力向上研修C	新地	集合
R5.7.31	あわじ特別支援学校夏季公開講座「読み書きに課題のある子の理解と支援」「読み書き、文章の指導」	田中・中野陽・北川	オンライン
R5.7.31	西宮市社協視察研修	平見・森 他10名	集合
R5.8.2	社協における生活困窮者支援体制強化(ほっとかへんネットワークカー配置)事業情報交換会	奥井・宮崎	オンライン
R5.8.2	2023年度発達障害のある方の相談支援にあたる支援者研修会in淡路	平見・新地・田中・山田	集合
R5.8.3	あわじ特別支援学校夏季公開講座「からだを使ったコミュニケーション」	橋本	集合
R5.8.4	あわじ特別支援学校夏季公開講座「聞くことに困難のある子どもへの支援」「卒業後を考える(進路)」	新地・山田・橋本	オンライン
R5.8.25	生活困窮者自立支援全国ネットワーク 就労支援部会	江本	オンライン
R5.8.29	県内市町共同募金委員会事務局長会議	山口	集合
R5.8.29	自治体・支援員研修向けコンサルティング事業	江本	集合
R5.9.2	にしのみやフォーラム	奥井	集合
R5.9.6	2023年度障害者虐待対応力向上研修D 虐待防止センター職員向け	田中	集合
R5.9.8~	サービス提供責任者研修（全6回）	池田	集合
R5.9.9	令和5年度ICT支援者研修会	北川	オンライン
R5.9.13	トップマネジメントセミナー	阿部・山口	集合
R5.9.15	令和5年度精神障害者の地域移行関係職員研修会「精神障害者の理解と支援について学ぶ研修」	新地・田中・中野陽・山田・橋本	オンライン
R5.9.26	令和5年度第1回社協オンラインセミナー	奥井・宮崎	オンライン
R5.9.27	チームでまちをデザインする ー包括的な支援体制・重層的支援体制整備事業セミナー	山口・平見・江本 他5名	オンライン

R5.10.11	副安全運転管理者講習	桑田	集合
R5.10.14~15	「ペアレントトレーニングと家族支援・心理教育プログラム」導入・実践のための講習会	藤崎	集合
R5.10.17	令和5年度自治体・支援員向けコンサルティング事業	江本	集合
R5.10.18	はたらく応援隊	江本	集合
R5.10.20~	就労支援部会（10/20・12/15）	江本	オンライン
R5.10.24	令和5年度医療的ケア児等コーディネーター養成研修（全3日間）	山田	集合
R5.10.24	西淡民生委員児童委員協議会視察研修	箕浦	集合
R5.10.25	南あわじ市在宅医療・介護連携研修会	森・松本・濱田	集合
R5.10.30	令和5年度高次脳機能障害研修	新地・中野陽・山田・橋本	オンライン
R5.10.31	障害者差別解消法と障害者虐待防止法について、実際の通報事案からの学び	北川	オンライン
R5.11.7	令和5年度包括的支援体制づくりセミナー	平見・奥井・江本	集合
R5.11.11	第10回生活困窮者自立支援全国研究交流大会（11/11・12・18）	江本	オンライン
R5.11.12	南あわじ市医療的ケア児支援講演会	平見・新地・山田・北川	集合
R5.11.14	2023年度法テラス兵庫地方協議会	奥井	オンライン
R5.11.16	介護スキルアップ公開講座（コミュニケーション技術の向上）	堀	集合
R5.11.17	令和5年度淡路圏域在宅療養支援推進会議（淡路圏域難病対策地域協議会）	新地・山田	集合
R5.11.18	兵庫県ヘルパー事業者協議会淡路ブロック研修会「バッククッキング講座」	森・池田・濱中・堀	集合
R5.11.22	生活支援コーディネーター実践セミナー	谷本	集合
R5.11.29	日常生活自立支援事業 令和5年度第2回専門員会議・研修会	中野寛	集合
R5.11.29	認知症の為に知っておきたいこと大切なこと（パーソンドセンターケア）	松本	オンライン
R5.12.5	令和5年度認定調査員フォローアップ研修（動画視聴）	田中	オンライン
R5.12.6~	令和5年度持続可能な権利擁護支援モデル事業研修（全4回）	奥井	オンライン
R5.12.7	みなと銀行 南あわじ支店 相続対策セミナー	江本	集合
R5.12.7	令和5年度認定調査員フォローアップ研修（演習講義）	田中	オンライン
R5.12.7	介護スキルアップ公開講座（職業倫理(接遇マナー等)理念の理解）	登	集合
R5.12.7	介護実践におけるチームマネジメント	三宅	集合
R5.12.11	令和5年度 生活福祉資金貸付事業にかかるブロック別意見交換会<東播磨ブロック・淡路ブロック>	奥井・宮崎	集合
R5.12.14	災害派遣福祉チーム員 基礎研修	平見・森・濱田	集合
R5.12.14	令和5年度生活困窮者自立支援制度人材養成研修 テーマ別研修「孤独・孤立の理解とアウトリーチ相談支援」	江本	オンライン

R5.12.19	令和5年度兵庫DWAT養成研修	平見・森・濱田	集合
R5.12.19	令和5年度医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修	新地・山田	集合
R5.12.22	令和5年度「ひきこもり・不登校のための連携会議」	江本	集合
R5.12.22	令和5年度アルコール研修会	平見・田中	集合
R6.1.21	淡路島の社会福祉協議会職員協議会新年のつどい	新地・奥本 他9名	集合
R6.1.29	『ハラスメント』について～働きやすい職場環境づくりをめざして～ 兵庫県介護支援専門員協会淡路島支部	山口・森・松本・濱田・松山・山本	集合
R6.1.31	倭文地区地域づくり協議会視察研修	池田	集合
R6.2.1	南あわじ市成年後見中核機関の整備に向けた勉強会	平見・奥井・江本	集合
R6.2.23	兵庫県内社協職員のつどい	奥本	集合
R6.2.23	西宮でこどもまんなか社会を考える研究会	新地・山田	集合
R6.2.26	令和5年度 生活困窮者自立支援制度連絡会議	江本	オンライン
R6.2.26～	令和5年度兵庫県強度行動障害支援者養成研修（実践研修） （全2日間）	田中	オンライン
R6.2.29	令和5年度自殺対策研修会	新地・山田・橋本	集合
R6.3.1	淡路島の社会福祉協議会職員協議会視察研修	新地・奥本 他4名	集合
R6.3.5	県内社協事務局長勉強会	山口	集合
R6.3.6	日常生活自立支援事業 令和5年度第2回専門員会議・研修会	山本	集合
R6.3.7	西淡民生委員児童委員協議会視察研修	箕浦	集合
R6.3.9	地域福フォーラム2024「生きづらさ」を生きていく ～ひとりで抱えこまないで～	新地・山田	集合
R6.3.11	生活支援コーディネーターフォローアップセミナー	川口	集合
R6.3.12	令和5年度生活福祉資金担当者会議	奥井	集合
R6.3.12	サービス提供責任者研修 「精神障害者の生活を支えるための心構え」	森・池田・濱中	オンライン
R6.3.14	令和5年度 淡路圏域障害福祉サービス従事者等研修	北川・森・新地 他4名	オンライン
R6.3.19	高次脳機能障害ってどんな障害なの？～高次脳機能障害の理解と兵庫県における支援について～	新地・山田・橋本	オンライン
R6.3.21	社協経営セミナー（第2回） 「介護保険の見直しとポイントと今後の社協の在宅サービスの方向性」	山口、森	オンライン

《会議を活用した職場内研修》

研修・会議等の名称	内容	開催頻度等
局長部長会議	人事や法人の運営にかかる重要案件を協議	月1回
管理職会議	各部からの報告・感染症対策や法人運営の課題を協議	月1回
オール社協会議	各支部での情報共有、個別ケースから見える地域課題等	週1回
ワーカー連携会議	各ワーカーからの報告、協議、確認等	週1回
ケアマネ会議	研修計画に基づく研修の実施・運営に関すること・ケースの共有、検討	週1回
相談支援専門員会議	多職種参加によるケースの共有と困難事例の検討	週1回
ヘルパー定例会	研修計画に基づく研修の実施・運営に関すること・ケースの共有、検討	月1回
なでしこミーティング (児童)	運営に関すること、予約状況の確認、ケース検討等	月2回・年4回(研修)
なでしこミーティング (生活介護)	研修計画に基づく研修の実施・運営に関すること・ケース検討等	月1回

■表彰 ※令和5年度は淡路地区社会福祉連合会（本会が事務局）より推薦

受賞者・団体（敬称略）	表彰名・大会等	表彰の内容
中村 三千雄	兵庫県社会福祉協議会会長表彰 福祉ボランティア功労者	地域で積極的に奉仕活動を続け、その功績が顕著な方
パナソニックエナジー 労働組合洲本支部	兵庫県社会福祉協議会会長表彰 福祉ボランティア功労者	地域で積極的に奉仕活動を続け、その功績が顕著な団体

《兵庫県共同募金会会長感謝》

2年以上におよび功労が顕著であるもの

受賞者・団体	
	幼保連携型認定こども園 松帆南
	幼保連携型認定こども園 松帆北
	八木小学校
	北阿万小学校
	倭文保育園

■実習生の受け入れ

期間	目的	人数	活動内容
R6.2.5～2.9	職場体験	2名	武庫川女子大学3回生（ほっとかへんネットによる社会福祉士実習受け入れ業務補助）

■インターンシップ制度について検討

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	
	淡路島で働きたいという学生に対して、就業経験を積む機会の創出について、3市社協協働で検討しています。

■資格取得の奨励

部署	氏名	資格名	受講日数	備考
居宅介護支援事業所	濱田 栄吾	主任介護支援専門員	12日	R5.7.15～R5.9.14

■目標シートの活用

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	自分のスキルやモチベーションを高めることを目的に、全職員が年間目標を設定して業務にあたっています。現状は各部署の管理者で目標設定時の個別面接、自己評価・上司評価後のフィードバック面接をしています。7年度から運用できるよう人事考課制度の構築について検討しています。
---------------------------	---

■メンタルヘルスの取り組み

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	毎年、全職員対象にストレスチェックを実施しフィードバックしています。セルフチェックを行うことで、自分の心の状態や健康状態をよく理解し、ストレスと上手に付き合う方法を学び、不調を未然に防げるよう取り組んでいます。
---------------------------	---

●法人のガバナンス強化（労働環境・法人の価値・収益率）をすすめます

■関連各法を遵守した運営

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	「職業倫理」「コンプライアンス」「プライバシー保護」の関係各法の遵守については毎年1回研修を開催し、健全な法人（事業）運営に努めています。所有する資格・各職種・各事業、それぞれに倫理規定や関係各法の理解、それらを遵守して仕事にあたることの必要性を再確認しています。
---------------------------	--

■理事会、監事会、評議員会の活性化

《理事監事会》

()内数字は、監事の出席人数

R5.6.2	【報告事項】 ①令和4年度一般会計収支予算第3次補正について 【審議事項】 ①令和4年度事業報告について ②令和4年度一般会計収支決算について ③監事監査結果について ④評議員の候補者について ⑤定時評議員会の日程及び審議事項について 【協議事項】 ①次期役員の選任について	13/15 (2)	南あわじ市社協 203会議室
R5.6.23	【報告事項】 ①役員選任の結果報告 【議事】 第1号議案 会長の選定について（定款第18条第2項） 第2号議案 副会長の選定について（定款第18条第2項）	11/14 (0) ※理事会開催のため	南あわじ市社協 203会議室
R5.7.31	【審議事項】 ①相談支援事業所運営規程の変更について ②就業規則の変更について ③評議員の解任について 【報告事項】 ①前回評議員会での意見について ②委員会等の報酬の取り扱いについて ③法務局跡活用に向けた視察研修について 【意見交換（協議）】 ①法務局跡の活用について ②評議員の意見反映について	13/14 (2)	南あわじ市社協 203会議室

R5.9.12	<p>【審議事項】 ①運営規程の変更について（各事業所）</p> <p>【報告事項】 ①第1四半期収支状況・活動について ②評議員選任・解任委員会の審議結果について ③法務局跡活用にに向けた内部協議の進捗について</p> <p>【協議事項】 ①法務局跡の活用について 論点：機能(役割)・視点・地域との関わりなど</p>	11/14 (2)	南あわじ市社協 203会議室
R5.12.8	<p>【審議事項】 ①令和5年度上半期事業報告について ②令和5年度上半期一般会計収支決算報告について ③監事監査結果報告について ④令和5年度第1次補正予算について ⑤評議員会の日程及び審議事項について</p> <p>【協議事項】 ①評議員候補者について ②法務局跡の活用案について</p>	14/14 (2)	南あわじ市社協 203会議室
R6.2.13	<p>【報告事項】 ①令和6年度能登半島地震の対応について ②法務局跡活用の進捗について ③運営指導に対する改善報告について</p> <p>【審議事項】 ①育児・介護休業規則の改定について ②評議員会の日程及び審議事項について</p> <p>【協議事項】 ①令和6年度の重点活動について</p>	11/14 (2)	南あわじ市社協 203会議室
R6.3.19	<p>【審議事項】 ①令和5年度第2次補正予算案について ②令和6年度事業計画案について ③令和6年度一般会計収支予算案について ④評議員会の日程及び審議事項について ⑤給与規程の改定について ⑥奨学金返済支援制度規程について</p> <p>【報告事項その他】 ①旧法務局跡の活用について ②能登半島地震被災地支援について他</p>	10/14 (2)	南あわじ市社協 203会議室



《監事監査》

月日	内容	場所
R5.5.25	<p>【総評】 地域生活課題が多様化複雑化する中で社会福祉協議会が取り組んできた活動は一定の評価ができるが、これからの南あわじ市の地域福祉を推進するにあたり、より一層重要な役割を担うことを期待し、次のとおり監事会としての意見を述べる。</p> <p>①台風襲来の時期を迎えるとともに、日本各地で強い地震が頻発している中、南海トラフ地震等自然災害への対応は南あわじ市にとって喫緊の課題である。平時から行政等関係機関との連携をより密にし、災害ボランティアセンターの機能強化はもとより、災害時にその機能が十分に発揮できるよう、市民に対する周知を徹底すると同時に、訓練や学習会を通じ役職員の意識向上に努めること。</p> <p>②なお、令和4年度において沼島地区で個別避難計画策定支援に着手できたことは評価できる。災害時に支援が必要な人すべての命を救えるよう、地域、行政、関係機関と協働してこの取り組みを市内全域に広げていくことを期待する。</p> <p>③地域福祉をすすめるうえで要となる非採算部門の職員人件費の公費補助ルールづくりの構築に向け具体的に取り組むこと。特に、令和5年度において実施される「重層的支援体制整備事業4者協議モデル事業」などの機会を捉え、南あわじ市の地域福祉行政を担える人員体制を整備するなど組織強化に努めること。</p> <p>④前記の協議をすすめるにあたっては、現状の人員体制や給与体系などを可視化するとともに、10年、20年先を見据えた長期的な経営計画の策定に努め、健全な法人運営を早期に実現すること。</p> <p>⑤社協が受けとめる相談者の多くは、「助けてと意思表示ができない」或いは「つなぐ機関や制度がない」人である。今後も制度の狭間で生じたこれらの課題解決に向けた「新しい活動の開発」に努めるとともに、相談者の権利擁護をはじめ、自立に向けた意思決定支援に関する技術や知識の向上に法人全体で取り組むこと。</p>	南あわじ市社協 203会議室
R5.11.22	<p>【総評】 令和5年度上半期の活動について一定の評価をしたうえで、南あわじ市の地域福祉をさらに推進するための期待を込め、次のとおり監事会としての意見を述べる。</p> <p>①情報を必要とされている方へ届けるしくみづくりについては、引き続き検討をすすめること。また、ほっとかへんネットの取り組みを含め、社協の認知度・理解度が高まるよう、その周知と啓発に取り組むこと。</p> <p>②また、理事監事会をはじめ、あらゆる会議のあり方について検証し、社協が協議体としての機能を発揮できるよう資料づくりや協議するテーマ設定・タイミングを正副会長と事務局であらかじめ共有すること。</p> <p>③社協という団体の理解、社協が行う活動の目的については役職員が共通理解できるようつとめること。また、四者協議の進捗や成果・課題についても共有し、地域共生社会の実現に向けて取り組むこと。</p> <p>④事業継続計画（BCP）の策定については、早期に策定し策定過程においても役職員間の共有につとめること。</p> <p>⑤特例貸付を利用した世帯の多くが償還免除や償還猶予である。「償還免除（猶予）」になったことは世帯が抱える課題が解消できていないとも捉えられるため、引き続き丁寧な世帯への関わりと状況の把握・支援につとめること。</p> <p>⑥物価高騰など社協の運営を取り巻く環境は依然として厳しいものがある。法人運営を円滑に行うため、補助金・受託金の支払い時期や割合について行政の担当部局にはたらきかけること。また、場合によっては「一時借り」という手段をとれるかどうか把握しておくこと。</p>	南あわじ市社協 203会議室

《評議員会》 () の数字は役員の出席人数

月日	内容	出席者数	場所
R5.6.23	【報告事項】 ①令和4年度一般会計収支予算第3次補正について 【審議事項】 ①令和4年度事業報告について ②令和4年度一般会計収支決算について ③監事監査結果について ④役員の選任について	25/29 (2)	南あわじ市社協 203会議室
R6.1.12	【審議事項】 ①令和5年度上半期事業報告について ②令和5年度上半期一般会計収支決算報告について ③監事監査結果報告について ④令和5年度第1次補正予算について	20/28 (2)	南あわじ市社協 203会議室
R6.3.28	【審議事項】 ①令和5年度第2次補正予算について ②令和6年度事業計画案について ③令和6年度一般会計収支予算案について 【報告事項その他】 ①旧法務局跡の活用について ②能登半島地震被災地支援について	24/28 (2)	南あわじ市社協 203会議室

《評議員選任・解任委員会》

月日	内容	出席者数	場所
R5.6.13	【審議事項】 第1号議案 評議員の解任について 第2号議案 評議員の選任について	5/5	南あわじ市社協 203会議室
R5.8.10	【審議事項】 第1号議案 評議員の解任について	5/5	書面開催
R5.12.21	【審議事項】 第1号議案 評議員の選任について	5/5	書面開催

《支部長会議》

月日	内容	出席者数	場所
R5.6.2	①支部運営委員会の情報共有 ②令和5年度の活動について	4/4	南あわじ市社協 203会議室
R5.6.23	兼配分委員会 ①令和5年度社会福祉助成金配分事業 配分計画について	4/4	南あわじ市社協 202会議室
R5.9.12	①支部運営委員会の情報共有 ②各地域でのイベント等について	3/4	南あわじ市社協 203会議室
R5.12.8	①支部運営委員会の情報共有 ②歳末たすけあい配分計画について	4/4	南あわじ市社協 203会議室
R6.2.13	①支部運営委員会の情報共有 ②合同フォーラム実施に向けての意見交換	4/4	南あわじ市社協 203会議室
R6.3.19	①支部運営委員会の情報共有 ②令和6年度の活動について	4/4	南あわじ市社協 203会議室

■内部牽制体制の点検

事故や苦情があったことは報告書にまとめ、管理職・部署内で共有し、同じミスを繰り返さないように改善策を検討しながら運営しています。今後もヒヤリハットも含めて軽微な事故や異常の時点で予防策を考え、重大な1件の事故を防ぐよう努めていきます。

部・所名	種別	件数	主な内容
総務・地域	苦情	3	職員の態度・不適切な対応、説明・情報提供不足
	事故	10	車両事故5件、信用失墜6件(誤入金・過誤振込・手続きの遅延等)
訪問介護	苦情	1	職員の態度・不適切な対応
	事故	18	サービス未提供12件、転倒2件、連絡漏れ、買物漏れ、外傷、職員による不慮の事故、車両事故
居宅介護支援	苦情	0	
	事故	2	車両事故
相談支援	苦情	0	
	事故	1	車両事故
生活介護	苦情	0	
	事故	13	外傷、転倒3件、利用者間トラブル3件、職員による不慮の事故2件、発注ミス、施錠忘れ、ふらつき、車両事故
児童・放デイ	苦情	0	
	事故	1	転倒

【改善に着手した内容と成果】

※苦情・事故の有無に関係なく改善に着手したものを記載しています。

部・所名	着手した点	内容と成果
総務・地域	内部会議で事故等を情報共有 総合相談課会議の定例化 (週1回)	苦情・事故内容を共有し、改善に向けた意見交換を行う。互いにチェックし合える体制づくりに努めるとともに、1人ひとりの意識を高めるため内部研修を受講した。 日常業務の点検を強化し、日常生活自立支援事業の支援員研修も実施。事業の目的の再確認と、1人で抱え込むことがない体制を整備している。
訪問介護	事故防止（サービス未提供）対策	「サービス未提供」を防ぐため、令和5年5月に『シフト作成・確認マニュアル』を作成。 しかし、以後も事故が続き、定例会にて研修を実施。防ぐことができる事故であることを全職員で確認し、マニュアルを再確認。また、各々が平時から取り組んでいることの共有や、他にも出来ることはないか話し合い、出た意見を取り入れて対策を講じている。
居宅介護支援	ケアマネジメント技術の向上	経験年数を重ねてくる中で、原点に戻り、ケアプラン作成時の捉え方のポイントの振り返りや、利用者本位である計画を意識するための文章の書き方について改めて確認を行い、よりよいケアプラン作成につなげていく意識づけを図ることができた。
相談支援	事業所ミーティングの定例化 (毎月実施)	ミーティングの中で事故内容を共有し、改善に向けた意見交換を行う。 1人ひとりの意識を高めるために、内部研修に参加し、自己研鑽を行った。
生活介護	利用者の状態や状況の把握と 対応の統一	家族や関係者から情報を得た職員は、責任をもってバイタル表に記載。状況等の確認を依頼した職員も記載漏れがないかをチェック。職員は出社後、必ずバイタル表を確認することで利用者への対応を統一できるようにした。
児童・放デイ	家族支援についてアンケートを実施	ペアレントトレーニングなどの新たな家族支援の在り方を検討するため、保護者対象にアンケートを実施。結果等を取りまとめて、6年度児童分野での家族支援の在り方を検討する。

■ 諸規定の点検と改定

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	制度や関係各法の変更等に応じ規定内容の見直しと変更を随時行っています。 国、兵庫県の情報についてはすべて提供されるものではないため、定期的にホームページを確認するほか、研修会への参加や事業者間での情報交換に努めています。
---------------------------	---

■旧法務局跡の改修

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	西宮市社協の地域生活拠点視察し理事監事会で協議を重ねた結果、「生活介護事業所」を軸にした拠点整備をすることを確認し地元で説明会を開催し、拠点整備について承諾されました。 令和7年9月の開所に向け準備をすすめています。
---------------------------	---

■ボトムアップのしくみづくり

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	各部署で開催している定例会議では、職員が意見を出しやすい環境づくりに努めています。挙げた意見等は管理職会議で共有・検討をしています。また、内容によっては理事監事会へつなげるようにしています。 今後も現場の声を活かした意思決定や組織運営に努め、職員の主体性やモチベーションの向上を図ります。
---------------------------	---

●災害時にも対応できる体制づくりをすすめます

■事業継続計画（BCP）の策定

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	6年度までに各事業においてBCPの策定が義務付けられ、研修を受講しながら策定しました。 今後は、社協全体のBCP策定に向けて進めていきます。
---------------------------	---

■災害ボランティアセンターの設置訓練

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	11月の総合防災訓練では、社会福祉法人連絡協議会などと連携し、災害ボランティアセンター設置運営訓練を行いました。1月に発生した能登半島地震被災地支援では、従来の災害ボランティアセンター運営支援ではなく能登福祉救援ネットワークへ協力し、被災地の福祉施設等の支援にあたりました。
---------------------------	---

■広域訓練や研修への参加

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	5年度は1月に発生した能登半島地震被災地支援を通じ兵庫DWATにおける連絡調整業務や能登福祉救援ネットワークが行う圏域・種別を超えた広域的な連携協働の実践を体験することができました。 能登の問題は淡路の問題につながるという意識を、所内はもとより関係機関と平時から共有しながら業務に取り組みます。
---------------------------	--

■災害救援機材・備品の点検と備蓄

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	毎年行う必要な資材の補充と消火栓や避難経路などの点検のほか、5年度は能登半島地震被災地支援活動のために派遣職員が必要なモバイルバッテリー等を購入しました。
---------------------------	---

■DWATについて検討

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	能登半島地震被災地支援のため兵庫DWATを編成し、本市からは淡路島福祉社会職員1名が被災地入りしました。今後の県担当課との調整のあり方や現地での活動者を増やすため、6年度は洲本市と合同で振り返りの機会を持つと同時に、ステップアップ研修を県、県社協と協議し企画する予定です。
---------------------------	--

◎「活動をすすめるための基盤整備と財源確保」

●組織の基盤強化をすすめます

■社協基盤強化計画の策定

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	組織の基盤強化に向けては、管理職会議で都度検討していますが、中・長期的な具体的な計画策定には至っていません。地域の公益的な活動に取り組む社協の継続的・安定的な運営を確保するため制度サービス部門を含む基盤強化計画の策定をすすめます。
---------------------------	---

■サポーターの増員

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	広報「わかば」の発行、Facebookの更新、ボランティアセンターだよりの発行、ホームページを通し、社協の活動について多くの住民の方に知って頂くために広報し続けています。社協のサポーターとして地域福祉推進の活動に賛同していただける方が増えるよう、世代に応じた情報発信について検討しています。
---------------------------	---

■行政・議会とのパートナーシップ

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	早朝懇談会においては、社会福祉法に位置づけられている社協の基本的な組織特性の理解について市長はじめ市役所幹部職員に伝える機会をもちました。 社協が行う事業や職員配置の多くは行政からの受託事業であるため、良好なパートナーシップのもとそれら事業の目的や成果について丁寧な共有・確認作業をすすめています。
---------------------------	--

■自治会、関係団体との連携

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	募金活動や会員募集など、自治会の理解がなければすすめていくことができません。社協活動を知っていただけるように積極的に広報活動を行い、理解者を増やしていけるように丁寧に取り組んでいきます。 6年度は、まちづくり部局である市民協働課と連携し市民交流センター単位へのアプローチをすすめます。
---------------------------	---

●財源の確保につとめます

■自主財源（会費・善意銀行等）確保に向けた活動の推進

寄附者の思いを地域に返していけるように、用途を明確に示しながら理解を求めていきます。また、社協を身近に感じてもらえるようにSNSやインターネットの活用も検討し、財源の確保に向けた工夫をしていく必要があります。

《一般会費》

地区	金額（円）	件数	市	金額（円）	件数
				402,000	804
広田	461,500	923	神代	328,500	657
倭文	197,000	394	倭文	62,000	124
松帆	462,000	924	志知	89,000	178
湊	300,000	600	福良	609,000	1,830
津井	188,000	376	賀集	442,500	885
阿那賀	218,500	437	北阿万	264,500	529
伊加利	66,000	132	潮美台	215,000	430
志知	102,000	204	阿万	430,500	861
榎列	375,500	751	灘	105,500	211
八木	418,000	836	沼島	66,000	132
			計	5,803,000	12,218

《賛助会費》

地区	金額（円）	件数
みどり	0	0
せいだん	10,000	1
みはら	0	0
なんだん	10,000	1
計	20,000	0

《特別会費》

地区	金額（円）	件数
みどり	222,500	95
せいだん	0	0
みはら	5,000	1
なんだん	17,000	17
計	244,500	113



能登半島地震被災地支援募金活動

《共同募金運動への協力》

(円)

広域目標額	地域目標額	期間拡大目標額	地域歳末目標額	実績額
883,000	7,507,000	1,000	1,151,000	9,512,435



《募金内訳》

募金方法	実績額 (円)	件 数	
一般募金	8,383,713		13,060
戸別募金	5,924,400	戸数	12,045 戸
街頭募金	81,343	回数	17 回
法人募金	1,918,000	件数	650 件
学校募金	189,882	学校数	35 件
職域募金	124,660	職域数	243 件
イベント募金	0	回数	0 回
個人募金	2,000	個人数	2 件
その他募金	143,428	件数	68 件
歳末たすけあい募金	1,128,722		12,086
戸別募金	1,040,650	戸数	12,081 戸
職域募金	87,070	件数	3 件
その他募金	1,002	件数	2 件

※期間中に受入した募金のみ記載

《戸別募金(一般募金・歳末募金)》

地区	金 額 (円)	件数	市		
			市	408,400	684
広田	617,100	888	神代	454,100	812
倭文	255,100	375	倭文	56,000	123
松帆	456,200	917	三原志知	118,600	178
湊	409,500	585	福良	675,650	1,830
津井	171,300	366	賀集	619,500	885
阿那賀	257,100	437	北阿万	370,300	529
伊加利	74,600	131	潮美台	231,000	430
西淡志知	116,400	215	阿万	508,800	848
榎列	376,100	687	灘	147,700	211
八木	549,200	818	沼島	92,400	132

《共同募金配分金の活用（配分結果）》

	事業分類	件数	金額（円）	備考
高齢者	日常生活支援	2	100,000	ひとり暮らし高齢者友愛訪問・独居老人見守り事業
	社会参加・まちづくり支援	4	896,455	世代間交流での体験学習・保育園訪問・花街道整備事業・ふれあい・いきいきサロン
	社会福祉施設支援	0	0	
	その他の地域福祉支援	0	0	
	災害対応・防災	0	0	
	小計	6	996,455	
障害児・者	日常生活支援	0	0	
	社会参加・まちづくり支援	4	233,360	障害者生活支援事業・さをり織り、書道教室・備品購入・ユニバーサルビーチ
	社会福祉施設支援	3	150,000	生活支援事業
	その他の地域福祉支援	2	14,000	難聴者の情報保障に関わる要約筆記への支援・県難聴団体会員として加入する
	災害対応・防災	0	0	
	小計	9	397,360	
児童・青少年	日常生活支援	0	0	
	社会参加・まちづくり支援	5	296,000	わくわく納涼祭り・親子日帰りツアー・交流イベント・高野山キャンポリー参加・ティキャンプ他
	社会福祉施設支援	1	80,000	祖父母と楽しむ夏まつり
	その他の地域福祉支援	2	145,000	子育て支援・遊び学ぶ広場を造る
	災害対応・防災	0	0	
	小計	8	521,000	
課題を抱える人	日常生活支援	0	0	
	社会参加・まちづくり支援	0	0	
	社会福祉施設支援	0	0	
	その他の地域福祉支援	0	0	
	災害対応・防災	0	0	
	小計	0	0	
住民その他	日常生活支援	0	0	
	社会参加・まちづくり支援	4	440,000	福祉まつり
	社会福祉施設支援	0	0	
	その他の地域福祉支援	29	5,263,078	地区社協・地域づくり協議会・地域のイベント・社協事業等
	災害対応・防災	0	0	
	小計	33	5,703,078	
合計		56	7,617,893	

《善意銀行（寄附金）》

(ア) 金銭預託

No.	月 日	地 区	預 託 者	預 託 内 容
1	4月13日	みはら	山口 利子	地域福祉のために
2	5月1日	せいだん	前田 由紀子	亡き父の供養のために
3	5月1日	みはら	山口 勇	地域福祉のために
4	5月30日	せいだん	御原中学校昭和43年度卒業生	地域福祉のために
5	6月1日	みはら	山口 利子	地域福祉のために
6	6月27日	みはら	藤江 時恵	地域福祉のために
7	7月4日	みはら	山口 勇	地域福祉のために
8	7月14日	なんだん	西山 一幸	山羊 月ちゃんの供養のために
9	7月18日	みどり	第20回広田小中学校	淡路学園へ寄贈
10	8月1日	みはら	山口 利子	地域福祉のために
11	8月2日	なんだん	北中第五期卒業生同窓会	地域福祉のために
12	8月21日	なんだん	阿万中学校昭和27年卒業生	地域福祉のために
13	8月30日	みはら	高志会	地域福祉のために
14	9月1日	みはら	山口 勇	地域福祉のために
15	9月7日	せいだん	亀井 克樹	地域福祉のために
16	10月3日	みはら	山口 利子	地域福祉のために
17	10月4日	なんだん	卯辰会阿万中8回生	地域福祉のために
18	10月13日	なんだん	上田 茂美子	地域福祉のために
19	10月24日	みはら	門田 照子	亡夫供養のために
20	10月27日	なんだん	山田 哲也	地域福祉のために
21	10月27日	みどり	平成25年緑民生委員児童委員OB会	地域福祉のために
22	11月6日	みはら	山口 勇	地域福祉のために
23	11月20日	なんだん	昭和11.12年会	地域福祉のために
24	11月21日	なんだん	福良中学校昭和34年卒業生同窓会	地域福祉のために
25	11月27日	みはら	藤江 時恵	地域福祉のために
26	11月29日	なんだん	山田 哲也	地域福祉のために
27	12月1日	みはら	山口 利子	地域福祉のために
28	12月5日	せいだん	西淡民生委員児童委員協議会	地域福祉のために
29	12月28日	みはら	真言宗淡路青年教師会	地域福祉のために
30	1月9日	みはら	山口 勇	地域福祉のために
31	2月2日	みはら	山口 利子	地域福祉のために
32	2月2日	みどり	倭文小学校80期同窓会	地域福祉のために
33	2月8日	なんだん	賀集あかふじ会平成3年度少年野球親の会	地域福祉のために
34	2月13日	なんだん	山田 哲也	地域福祉のために
35	2月20日	なんだん	高野山金剛講阿万支部	地域福祉のために
36	3月4日	みはら	山口 勇	地域福祉のために
37	3月10日	なんだん	北阿万いきいき百歳体操	地域福祉のために
38	3月10日	なんだん	ぬぼこの会	地域福祉のために
39	3月18日	みどり	倭文小学校6年生	地域福祉のために
40	3月27日	みどり	藤江 時恵	地域福祉のために

※上記以外に「匿名」での金銭預託が 7件ありました。

(イ) 物品預託

品名	上半期(件数)	下半期(件数)
プルタブ	81	84
古切手	61	77
食 材	20	40
介護用品	3	11
手作り作品	17	15
書き損じはがき・ベルマーク・プリペイドカード他	38	51
計	220	278

(ウ) 払い出し

事業名	件数	払出金額(円)	内容
歩行補助器購入助成事業 (上限5,000円)	19	95,000	高齢者の介護予防の一環として、歩行補助器購入助成を行っています。
チャイルドシート・ベビー カー購入助成事業 (上限5,000円)	58	290,000	子育て支援の一環として、チャイルドシート・ベ ビーカー・ジュニアシート購入の助成を行っていま す。
安全坊や設置事業	35	170,040	交通安全活動の一環として、学校や住民の申出に基 づき信号機のない交差点等の危険箇所へ安全坊やを 設置しています。

※上記以外にも地域からの相談や要望に応じて、必要な払い出しを行っています。

■ 助成事業の活用

取り組み内容 (成果・課題・今 後の方向性等)	民間団体助成金の情報は積極的に得ています。5年度は、生活介護の送迎用 車輛を24時間テレビチャリティ実委員会より寄贈いただきました。 6年度においては、中央共同募金会や神戸やまぶき財団へのエントリーを予 定しています。
-------------------------------	--

■ クラウドファンディングなど新たな財源確保

取り組み内容 (成果・課題・今 後の方向性等)	クラウドファンディングを含めた民間財源の獲得・活用への取り組みについ ては、今後の組織運営にとって必要不可欠なものです。賛助会費や寄附金など地 域福祉の推進と運営強化に使える自由度が高い民間財源の確保について幅広く 発信していきます。
-------------------------------	--



■自主財源（事業収入）確保に向けた事業の推進

安定したサービス提供を行うためにも、実績の分析と評価を繰り返し行い、改善に向けた取り組みを共有していきます。事業運営に必要な人材確保をすすめ、適正な運営を目指します。

《介護保険サービス》

（ア）居宅介護支援事業

◆月別介護報酬の状況

（単位：円）

月	5年度	4年度	比較
4月	1,566,640	1,631,580	△ 64,940
5月	1,554,100	1,714,930	△ 160,830
6月	1,517,020	1,733,520	△ 216,500
7月	1,482,790	1,732,740	△ 249,950
8月	1,457,580	1,701,500	△ 243,920
9月	1,373,950	1,660,600	△ 286,650
10月	1,441,940	1,644,260	△ 202,320
11月	1,482,400	1,584,340	△ 101,940
12月	1,472,550	1,609,620	△ 137,070
1月	1,453,080	1,515,930	△ 62,850
2月	1,327,930	1,531,050	△ 203,120
3月	1,400,060	1,549,720	△ 149,660
合計	17,530,040	19,609,790	△ 2,079,750

（イ）訪問介護事業

◆月別介護報酬の状況

（単位：円）

月	5年度	4年度	比較
4月	2,161,203	2,086,393	74,810
5月	2,148,672	2,155,470	△ 6,798
6月	2,197,242	2,239,502	△ 42,260
7月	2,159,085	2,349,776	△ 190,691
8月	2,118,540	2,142,523	△ 23,983
9月	2,098,800	2,113,315	△ 14,515
10月	2,199,942	2,243,849	△ 43,907
11月	2,055,879	2,150,791	△ 94,912
12月	2,123,388	2,144,365	△ 20,977
1月	2,044,685	1,926,462	118,223
2月	2,075,296	1,859,181	216,115
3月	2,048,332	2,198,959	△ 150,627
合計	25,431,064	25,610,586	△ 179,522

《障害福祉サービス》

(ア) 居宅介護等事業(ヘルプ)

◆月別介護報酬の状況

(単位：円)

月	5年度	4年度	比較
4月	2,342,520	2,083,661	258,859
5月	2,370,319	2,233,707	136,612
6月	2,284,066	2,149,783	134,283
7月	2,152,906	2,221,253	△ 68,347
8月	2,253,824	2,288,937	△ 35,113
9月	2,276,767	2,089,633	187,134
10月	2,309,571	2,188,035	121,536
11月	2,195,718	2,227,081	△ 31,363
12月	2,079,621	2,231,254	△ 151,633
1月	1,950,708	1,977,611	△ 26,903
2月	1,942,655	2,141,419	△ 198,764
3月	2,082,535	2,406,826	△ 324,291
合計	26,241,210	26,239,200	2,010

(イ) 相談支援事業

◆月別介護報酬の状況

(単位：円)

月	5年度	4年度	比較
4月	1,878,050	1,464,620	413,430
5月	1,472,100	1,231,040	241,060
6月	1,354,520	1,040,360	314,160
7月	1,245,330	1,006,630	238,700
8月	1,481,930	1,493,600	△ 11,670
9月	1,243,820	814,180	429,640
10月	1,449,630	1,225,070	224,560
11月	1,738,270	1,453,970	284,300
12月	1,604,360	1,391,880	212,480
1月	1,432,720	996,080	436,640
2月	1,131,720	1,136,640	△ 4,920
3月	1,694,020	1,200,100	493,920
合計	17,726,470	14,454,170	3,272,300

(ウ) 移動支援事業

◆月別介護報酬の状況

(単位：円)

月	5年度	4年度	比較
4月	4,995	15,090	△ 10,095
5月	24,500	20,130	4,370
6月	23,955	14,625	9,330
7月	7,110	29,065	△ 21,955
8月	7,020	10,925	△ 3,905
9月	15,730	6,885	8,845
10月	27,690	7,560	20,130
11月	9,305	15,660	△ 6,355
12月	20,490	17,270	3,220
1月	6,210	11,430	△ 5,220
2月	6,150	10,685	△ 4,535
3月	20,160	15,245	4,915
合計	173,315	174,570	△ 1,255

(エ) 生活介護(なでしこ)

◆月別介護報酬の状況

(単位：円)

月	5年度	4年度	比較
4月	2,918,810	3,058,180	△ 139,370
5月	3,092,410	2,728,590	363,820
6月	3,116,310	3,367,520	△ 251,210
7月	2,938,000	2,838,730	99,270
8月	2,741,820	2,326,140	415,680
9月	2,826,640	3,037,500	△ 210,860
10月	3,047,810	2,978,690	69,120
11月	3,200,140	2,685,580	514,560
12月	3,095,130	2,923,710	171,420
1月	2,570,200	2,320,220	249,980
2月	2,856,840	2,857,640	△ 800
3月	3,029,600	3,313,080	△ 283,480
合計	35,433,710	34,435,580	998,130

(オ) 児童発達支援 (なでしこ)

◆月別介護報酬の状況

(単位：円)

月	5年度	4年度	比較
4月	844,620	912,182	△ 67,562
5月	825,810	979,940	△ 154,130
6月	895,040	1,020,401	△ 125,361
7月	923,220	1,003,070	△ 79,850
8月	944,560	851,653	92,907
9月	998,531	1,102,758	△ 104,227
10月	920,576	961,710	△ 41,134
11月	1,095,121	1,211,226	△ 116,105
12月	1,164,418	1,167,282	△ 2,864
1月	1,110,590	1,000,462	110,128
2月	1,144,225	1,224,672	△ 80,447
3月	1,297,104	1,427,040	△ 129,936
合計	12,163,815	12,862,396	△ 698,581

(カ) 放課後等デイサービス (なでしこ)

◆月別介護報酬の状況

(単位：円)

月	5年度	4年度	比較
4月	828,822	771,053	57,769
5月	825,932	864,088	△ 38,156
6月	713,951	774,773	△ 60,822
7月	906,310	824,488	81,822
8月	877,492	873,301	4,191
9月	775,356	749,513	25,843
10月	787,973	712,309	75,664
11月	801,469	811,082	△ 9,613
12月	753,660	574,032	179,628
1月	745,452	657,041	88,411
2月	793,257	781,224	12,033
3月	851,884	841,772	10,112
合計	9,661,558	9,234,676	426,882

■公費財源ルールづくりに向けた協議の本格化

補助、受託事業の目的を再確認しながら、組織運営に必要な財源が確保できるように行政に働きかけていきます。継続的な協議を行えていない現状であり、活動の効果や成果を伝えるとともに、見えてきた課題を共有し共に検討していける場づくりをすすめていきます。

《補助金》

(単位：円)

名称	5年度	4年度	比較
ひょうご災害ボランティア活動サポート事業補助金(県)	1,000,000	1,000,000	0
ボランティア災害共済運営事務費等(県)	32,000	30,000	2,000
生活困窮者支援体制強化事業補助金(県)	5,792,000	0	5,792,000
福祉コミュニティづくり推進事業(市)	21,500,000	21,500,000	0
市町ボランティア活動支援事業(市)	1,000,000	1,000,000	0
障がい者交流事業補助金(市)	300,000	300,000	0
音声パソコン教室補助金(市)	200,000	200,000	0
フードサポート体制整備補助金(県)	0	200,000	△ 200,000
支援が必要な感染高齢・障害者に対するフォローアップ体制強化事業補助金(県)	0	1,255,000	△ 1,255,000
サービス継続支援事業補助金(県)	111,000	152,000	△ 41,000
光熱費等高騰対策一時支援金(県)	188,000	79,000	109,000
社会福祉施設等物価高騰対策支援金(市)	859,000	0	859,000
フードドライブスタートアップ事業補助金(県)	0	4,000	△ 4,000
合計	30,982,000	25,720,000	5,262,000

《受託金》

(単位：円)

名称	5年度	4年度	比較
福祉サービス利用援助事業	2,659,000	2,448,000	211,000
生活福祉資金貸付事業	426,447	1,205,947	△ 779,500
共助の基盤づくり事業	3,998,500	3,998,500	0
生活困窮者自立相談支援事業	7,499,800	7,499,800	0
第2層生活支援体制整備事業	8,000,000	8,000,000	0
相談支援事業	6,665,500	6,665,500	0
基幹相談支援事業	2,230,000	2,230,000	0
要介護認定調査事業	48,400	110,000	△ 61,600
介護予防支援事業	191,700	220,100	△ 28,400
障害程度区分認定調査事業	233,200	176,000	57,200
合計	31,952,547	32,553,847	△ 601,300

■職員配置（3月31日現在）

職 種	常勤	常勤嘱託	パート	採用人数	退職人数
コミュニティワーカー	7			1	1
ほっとかへんねっとワーカー	1				
生活困窮者自立（主任）相談員	(1)				
生活支援コーディネーター		2			1
日常生活自立支援 生活支援員		2	3 (1)		
ボランティアコーディネーター	(1)				
介護支援専門員	3	(1)			
訪問介護管理者	1				
訪問介護員	5		15		
相談支援専門員	4 (1)			1	
児童発達支援管理責任者		1			
サービス管理責任者	1				
児童指導員	3				
看護師			2 (1)		
生活介護 生活支援員			11 (1)	1	2
栄養士			1		
調理員	(1)	(1)			
運転員			2		
市役所派遣	1				
事務	3	2			1
実数	29	7	34	3	5

※職種は主な業務でカウント、（ ）中数字は兼務の人数。※採用、退職は今年度中における数を記載。

■職員配置（3月31日現在）

職 種	常勤	常勤嘱託	パート	採用人数	退職人数
企画経営部 総務課	2	2			
地域生活支援部	14(3)	4	3(1)	2	2
地域福祉課	6	2		1	2
総合相談課	3(2)	2	3(1)		
相談支援事業所	5(1)			1	
在宅福祉サービス部	13(1)	1(2)	31(2)	1	3
訪問介護事業所	6		15		1
居宅介護支援事業所	3	(1)			
なでしこデｲﾝｽﾀﾙﾀｰ 生活介護	1(1)	(1)	16(2)	1	2
なでしこデｲﾝｽﾀﾙﾀｰ 児童発達・放デイ	3	1			
実数	29	7	34	3	5

※（ ）中数字は兼務の人数。※採用、退職は今年度中における数を記載。